



要配慮者利用施設の防災担当者研修会(小松島市) ～要配慮者利用施設における避難の実効性確保について～

徳島県 県土整備部 砂防防災課
令和8年7月30日(木)

要配慮者利用施設における避難確保の重要性

●避難確保が不十分

- 平成28年8月台風10号による豪雨で、岩手県小本川が氾濫し、「グループホーム楽ん楽ん」の入所者9名が犠牲となる被害が発生



- 避難準備情報の理解が不十分
- 水害を想定した避難マニュアルはなく、訓練もしていなかった

- 避難準備・高齢者等避難開始に変更
- 水防法が改正され、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成と市町村への報告及び避難訓練の実施が義務化

- 令和2年7月豪雨で、熊本県小川が氾濫し、特別養護老人ホーム千寿園では、施設の1階が浸水し、利用者14名が犠牲となる



- 土砂災害は想定していたが水害は想定していなかった

- 水防法が改正され、要配慮者利用施設における避難訓練結果の市町村への報告が義務化され、避難確保計画や避難訓練の内容に対して市町村が助言や勧告が行えるようになった

要配慮者利用施設における避難確保の重要性

●避難確保が十分

・利用者や職員が安全に避難できた事例

R元台風19号 埼玉県川越市 川越キングスガーデン

警察等により、近傍の避難所へ全員避難

スロープ・階段によりC棟(2階)へ避難

【特別養護老人ホーム
川越キングスガーデン】
利用者100人

到達水位

A棟

B棟

C棟



要配慮者利用施設における避難確保の重要性

- 浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波災害警戒区域内に位置し、地域防災計画に定められた施設には、洪水・雨水出水・高潮・土砂災害・津波に対する避難確保計画を作成し、市町村に報告することが義務付けられています。
- また、訓練を実施し、その結果を市町村に報告することが義務付けられています。
- まずは、従事している施設の避難確保計画を確認しましょう。

施設管理者

- 避難確保計画の作成
- 避難訓練の実施



【ポイント】

既存の非常災害対策計画や消防計画、学校の危機管理マニュアル等と一体的に作成することが可能です。

市町村

- ・ 避難確保計画の報告
- ・ 訓練結果の報告

〇〇防災課



助言・勧告等



防災気象情報等の改善

**令和8年5月29日(金)から
運用が開始されています。**

これまでの防災気象情報と警戒レベルとの関係

- **警戒レベル**は、住民が災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう、**避難情報等を5段階に整理**したものです。（例：警戒レベル4＝避難指示、警戒レベル3＝高齢者等避難）
- **防災気象情報**は、**避難情報の発令や住民の自主避難の参考となる「警戒レベル相当情報」**という位置づけですが、警戒レベルとの関係が分かりづらいという課題があります。

警戒レベル				これまでの防災気象情報（警戒レベル相当情報）				
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報（避難情報等）	警戒レベル相当情報	防災気象情報			
					洪水等に関する情報			土砂災害
					指定河川洪水予報（河川毎）	洪水害（市町村毎）	大雨浸水害（市町村毎）	高潮害
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報（浸水害）		大雨特別警報（土砂災害）
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4相当	氾濫危険情報			土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※	高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報	洪水警報		大雨警報（土砂災害）
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認する	洪水、大雨、 高潮注意報	2相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報	1相当				

市町村は、警戒レベル相当情報などを参考に、総合的に避難指示等の発令を判断する

防災気象情報と警戒レベルとの関係が分かりづらいという課題があり、「防災気象情報に関する検討会」において2年半かけて検討。その最終とりまとめ（令和6年6月）に沿って防災気象情報を改善。

新しい防災気象情報（令和8年5月29日(金)から運用開始）

- 防災気象情報（河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮）を5段階の警戒レベルにあわせて発表します。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル4相当の情報として危険警報を新設します。**
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表します。**（例：レベル4大雨危険警報 等）

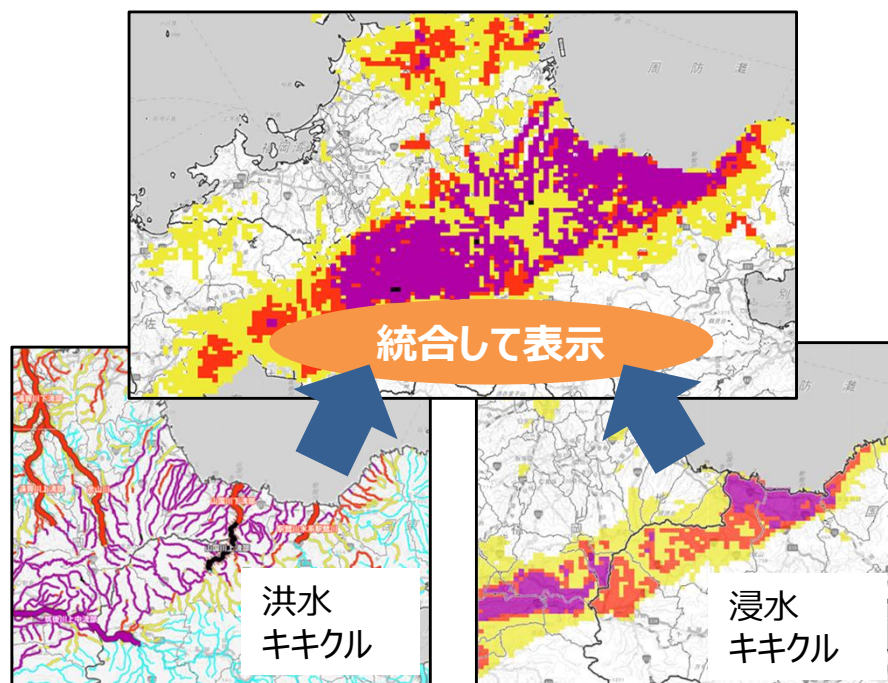
新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	河川氾濫 1級河川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 波の打上げによる浸水	（警戒レベルごとの） 住民が とるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！> -----					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める

キキクル

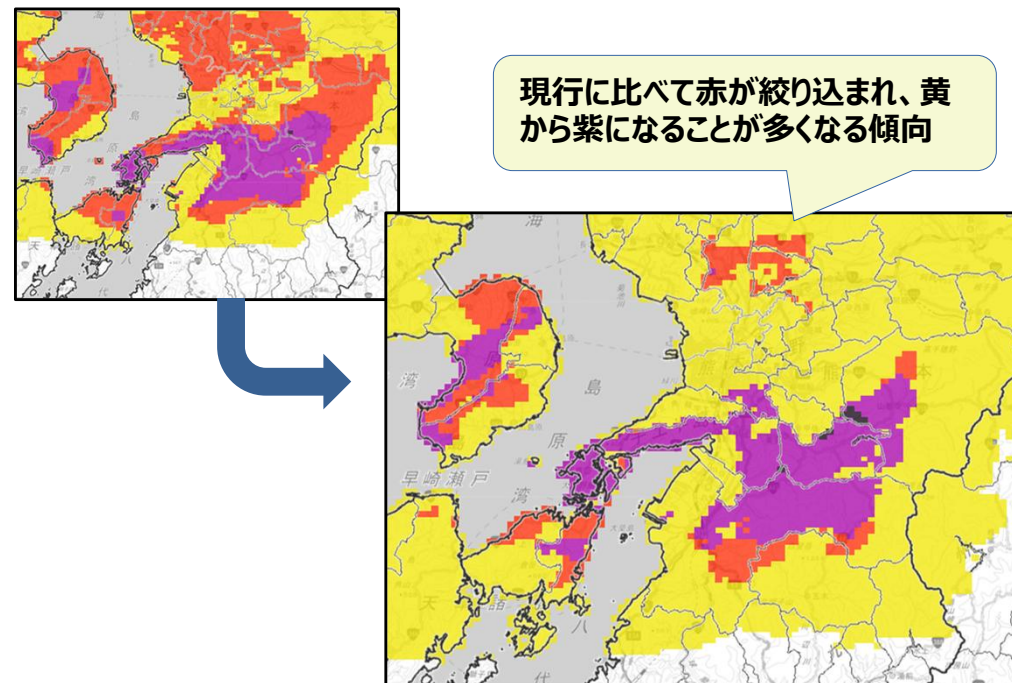
- 大雨や土砂災害に関する情報が発表された際、**危険度が高まっている地域を確認**するにはキキクルを活用してください。
- 「**大雨キキクル**」は、**大河川以外の河川の氾濫と浸水の危険度を重ねて表示**するもので、大雨に関する情報に対応しています。
- 「**土砂キキクル**」は、土砂災害の危険度を表示するものです。表示方法は従来と変わりませんが、以下の特性の変化に留意が必要です。
 - 現行に比べ、警戒（赤色）の判定が狭く、**注意（黄色）から危険（紫色）のケースが多くなります。**
 - 4～6時間先に警戒レベル4相当の基準に達すると予想してレベル3土砂災害警報を発表した場合には、**警戒（赤色）の判定が出ていないことがあります。**

大雨キキクル（イメージ）



気象庁HPでは現行の洪水キキクルと浸水キキクルも切り替えて閲覧可能

土砂キキクルの特性変化（イメージ）



線状降水帯に関する情報の改善(直前予測の新設)

観測の強化、予測の強化により、線状降水帯に関する情報（文章・図）の段階的な改善を実施

- ・ **令和8年**から、**2～3時間前**を目標にした予測情報（文章・図）を提供開始
- ・ **令和11年**から、**半日程度前**に線状降水帯による大雨の可能性が高い**市町村**を把握できる格子形式の分布図を提供予定

情報のリードタイムを伸ばし、対象地域を絞り込むことで、国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく。

文章
情報

半日前予測

半日程度前からの呼びかけ

令和4年

地方単位で予測

令和6年

府県単位で
発生の半日程度前に予測

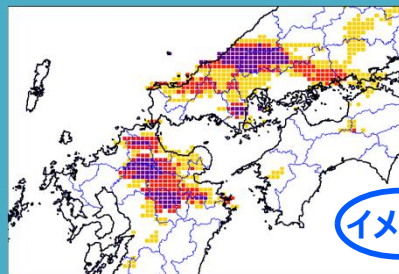
〇〇県では、〇〇から〇〇にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

図
情報

計画

令和11年

線状降水帯発生による大雨の
可能性が高い**市町村**を把握
できる格子形式の分布図を表示※1



イメージ

直前予測

確度の高い直前の予測

開始

令和8年

〇〇県北部などの
一次細分区域単位で
線状降水帯となる
2～3時間前を目標に予測

〇〇県北部では、今後3時間以内に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所で降り続く可能性が高まっています。命に危険が及ぶ災害の危険度が非常に高まるおそれがあります。

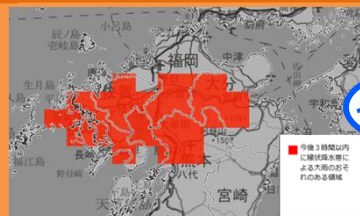
イメージ

線状降水帯予測マップ

開始

令和8年

線状降水帯となり、災害をもたらす
大雨のおそれがある大まかな領域を
2～3時間前を目標に
図情報で表示



イメージ

発生情報

令和3年

〇〇県北部などの
一次細分区域単位で
線状降水帯の発生をお知らせ

+ 追加

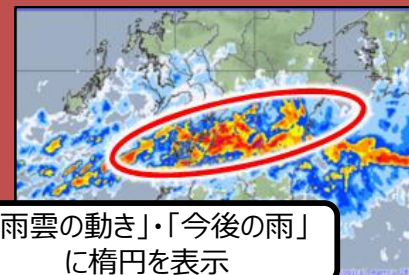
令和5年

最大**30分**程度前倒し

〇〇県北部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まっています。

令和3年

線状降水帯の雨域を
楕円で表示
最大30分程度前倒して解析した結果も
楕円で表示（令和5年～）



「雨雲の動き」・「今後の雨」
に楕円を表示

※ 従前の計画通り令和11年に提供開始予定。
令和12年度運用開始予定の次期静止気象衛星により
更なる予測精度向上を目指す。

令和8年5月29日から新たに開始

災害について

小松島市における災害リスク

小松島市の災害リスクとしては、地震・津波、水害（洪水・雨水出水）、土砂災害、高潮などが考えられます。
この内、次の3つについて避難確保の重要性等を説明します。

水害（洪水）



高潮



土砂災害

①土石流



②がけくずれ



③地すべり

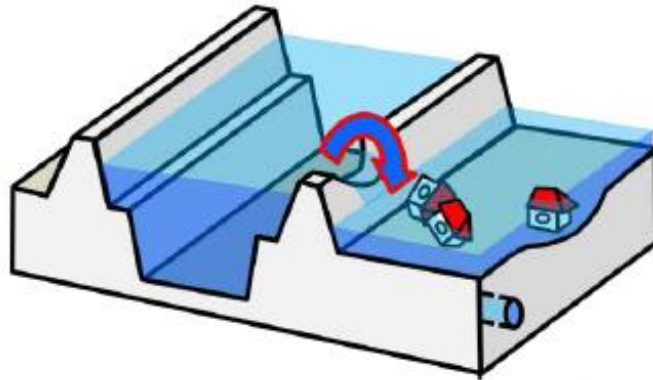


水害とは(洪水等の種類)

かきすいはんらん
外水氾濫

ないすいはんらん
内水氾濫

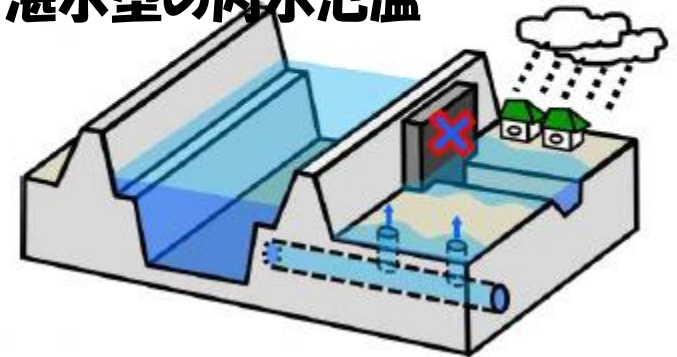
かせん ぞうすい
河川の増水が
げんいん
原因



だいかせん ぞうすい
大河川の増水による

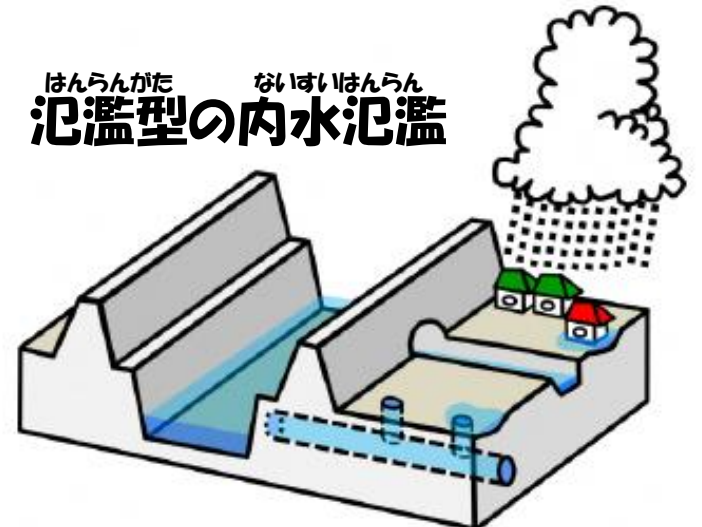
しせん はんらん
支川の氾濫

たんすいかた ないすいはんらん
湛水型の内水氾濫



かせん ぞうすい
河川の増水に
むかんけい
無関係

はんらんがた ないすいはんらん
氾濫型の内水氾濫



洪水・・・外水はん濫



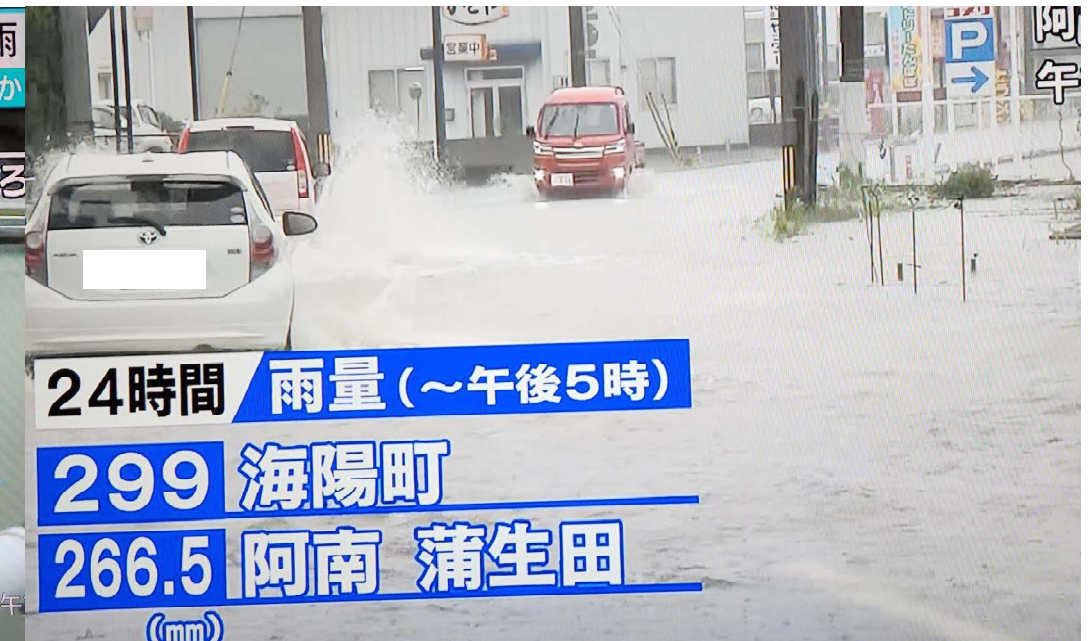
堤防が壊れる

川の水が
堤防を越える



雨水出水・・・内水はん濫

(令和5年6月2日の大雨による浸水)



土砂災害とは(種類)

①がけ崩れ

1986年 鹿児島豪雨災害(鹿児島県鹿児島市)



NPO法人土砂災害防止広報センター

②土石流

2014年 広島土砂災害(広島県広島市)



NPO法人土砂災害防止広報センター

③地すべり

1985年 地附(ぢづき)山地すべり(長野県長野市)



NPO法人土砂災害防止広報センター



土砂災害を起こす自然現象 ①がけ崩れ

- ・ガケや急な斜面が大雨や地震などで突然崩れ落ちる現象
- ・突然崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が発生しやすい



こんな
ところが
危険!

- 高くて急な山
- ひびが入っているがけ
- わき水が多いがけ

1986年 鹿児島豪雨災害(鹿児島県鹿児島市)



NPO法人土砂災害防止広報センター

斜面の高さの2倍ぐらいの距離まで
崩れた土砂が届く可能性

土砂災害を起こす自然現象 ②土石流

- ・大雨によって山の斜面が崩れ、その土砂が谷にあった土砂とともに水と混じってものすごい勢いで流れてくる現象
- ・時速20～40kmの速度で一瞬のうちに家や畑を押し流す



傾斜が2～3度のところまで土砂が到達

こんな
ところが
危険!

- 急な谷川の近く
- おうぎ形に広がった谷川
- 谷の出口に大きな石がゴロゴロしているところ

2014年 広島土砂災害(広島県広島市)

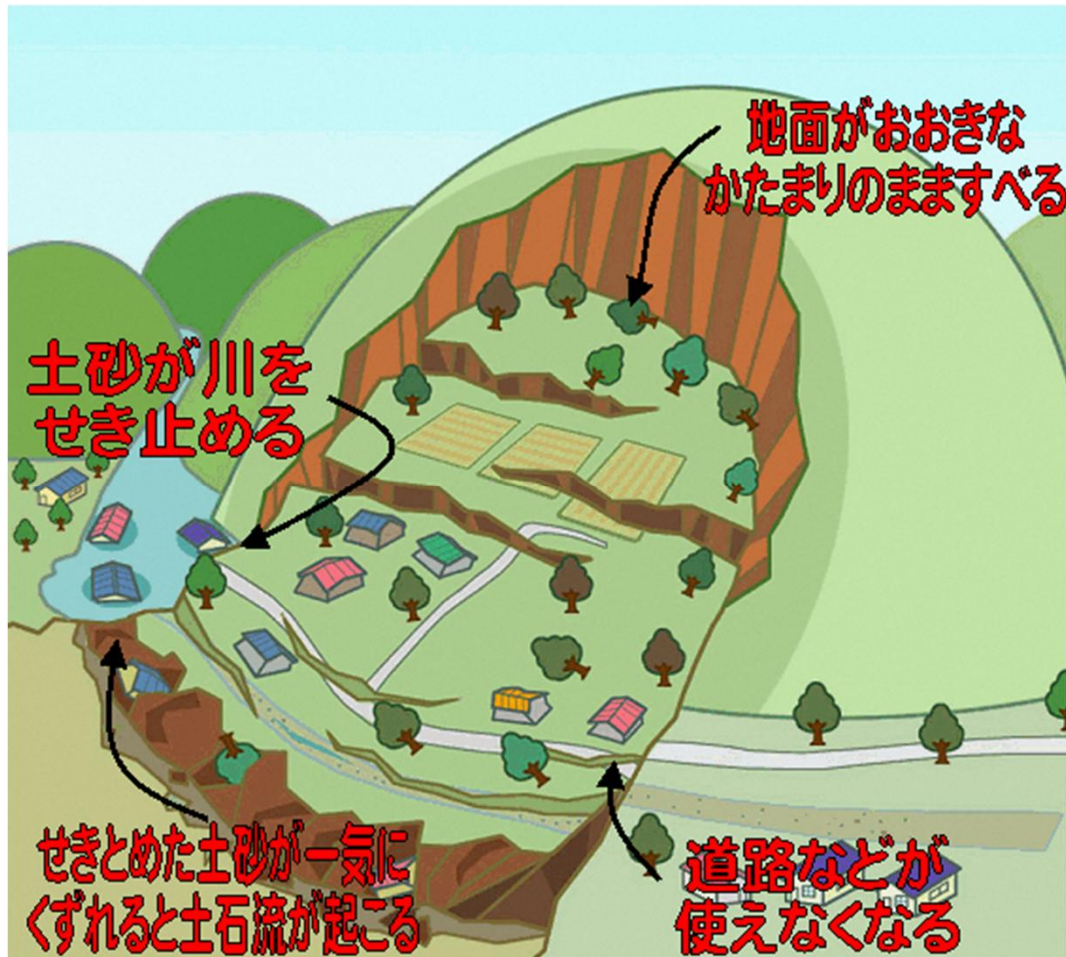


NP0法人土砂災害防止広報センター

土砂災害を起こす自然現象

③地すべり

- ・ 地面の一部又は全部がゆっくりと滑り落ちる現象（突然いっきに数m動くこともある）
- ・ 広い範囲にわたって動くため大きな被害が出る



土砂の移動スピードは遅い(1mm/日程度)
1mm/hで注意。4mm/hを超えると避難

こんな
ところが
危険!

- 過去に地すべりが発生
- 緩やかな斜面
- 地面に割れ目がある

1985年 地附(ちづき)山地すべり(長野県長野市)



NPO法人土砂災害防止広報センター

へいせい
平成30年

にしにほん
西日本豪雨

みよし
三好市山城町



水害と土砂災害の特徴比較

水害

外水氾濫

内水氾濫



新潟県三条市 信濃川支川五十嵐川(外水氾濫)

土砂災害

がけ崩れ

土石流

地すべり



長野県岡谷市湊3丁目(土石流)

災害の特徴

- 比較的**広域**に渡って被害が拡大
- 河川の水位上昇に伴い、**徐々に**浸水域、浸水深が増加
- 破堤による外水氾濫の場合は**家屋の破壊**を生じるが、内水氾濫の場合は**家屋の浸水**が大半
- 豪雨のたびに同じ地域で**繰り返し起こる**

- 局所的**に被害が発生
- 降雨を起因として発生し、**突発的に**被害が発生
- 土砂と石礫が高速で移動するため、**家屋の破壊**を生じ、**人的被害**が発生しやすい
- 豪雨のたびに同じ箇所で**繰り返し起こることは少ない**(火山地域を除く)

避難行動に関する特徴

- 川の水位等から**危険性を判断**
- 水位を目視にて確認できるため、**危険性を認識しやすい**
- 流域内の降雨状況から水位を**精度よく想定することが可能**

- 降雨と地形、地質状況に起因するため、**危険性を判断しにくい**
- 目視による確認が比較的困難であるため、**危険性を認識しにくい**
- 降雨や地形、地質等の複数の要因が影響するため、**精度の高い発生予測が困難**

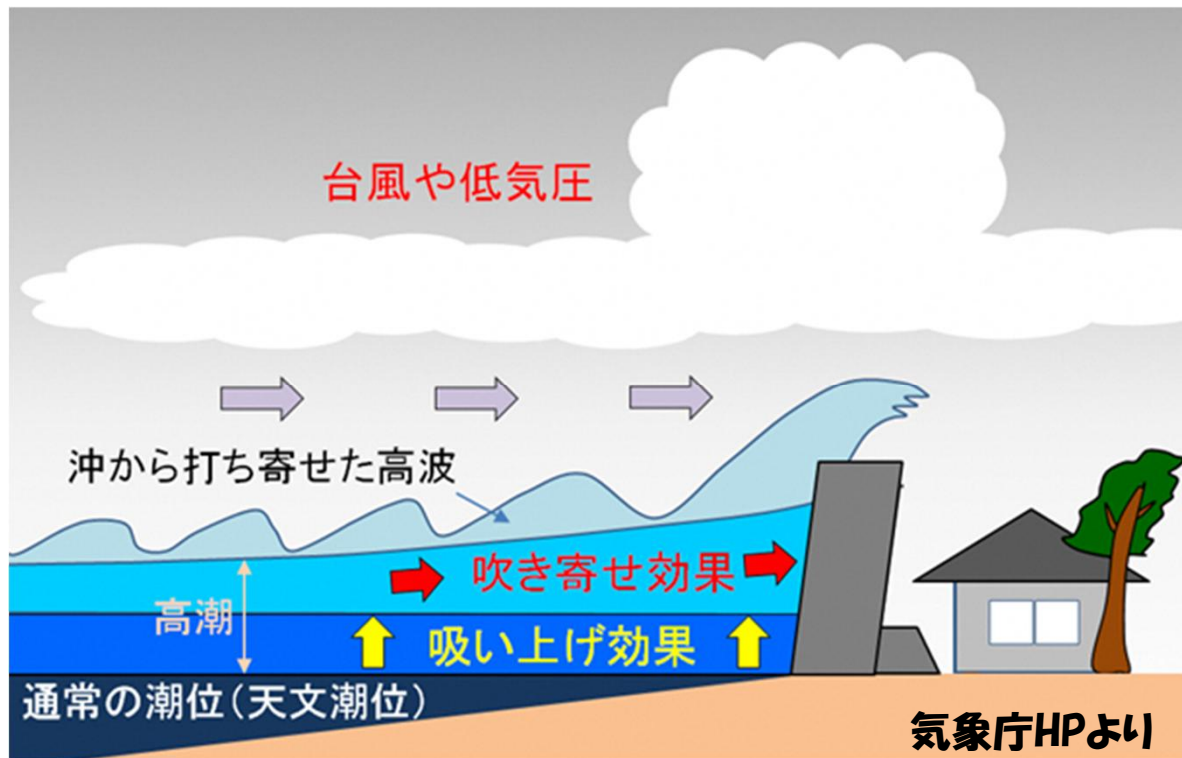
住民の意識

- 危険性を認識しやすいため、比較的**避難する**。

- 危険性を認識しにくいいため、**避難しない**。

高潮とは？

台風や発達した低気圧が通過するとき、「吸い上げ効果」や「吹き寄せ効果」により、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。



吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いいため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。

その他の高潮の特徴

- 台風や発達した低気圧によるため、「洪水」や「強風」を伴う「複合災害」になる
- 津波と同じように、海からやってきて、河川を遡上して氾濫することもある

※越堤や破堤等による「外水氾濫」もあれば、河川の水位が上昇することにより、降雨が排水できずに「内水氾濫」になることもある。

高潮被害(昭和34年・伊勢湾台風・名古屋市)

伊勢湾台風

犠牲者5,098人(死者4,697人・行方不明者401人)・負傷者38,921人

(「消防白書」H20版)

室戸台風、枕崎台風とあわせて昭和の三大台風→犠牲者を3,000人以上出した
ほぼ全国に及んだ経済的被害は莫大

GDP比被害額は阪神・淡路大震災の数倍・関東大震災に匹敵
災害対策基本法←伊勢湾台風を教訓



	災害	発生年	死者・行方不明者数
1	関東大震災	1923	105,385
2	明治三陸地震大津波	1896	21,959
3	東日本大震災	2011	18,455
4	濃尾地震	1891	7,273
5	阪神・淡路大震災	1995	6,437
6	伊勢湾台風	1959	5,098
7	福井地震	1948	3,769
8	枕崎台風	1945	3,756



災害から命を守る

●平常時・日頃の備え

① 災害リスクを知る

- (1) 洪水 ①浸水深 ②浸水継続時間 ③家が壊れる区域
- (2) 土砂災害 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
- (3) 高潮 ①浸水深 ②浸水継続時間

② 安全な避難を考える・避難確保計画の策定

③ 避難訓練・防災教育の実施

●大雨時・早めの避難

避難情報や防災気象情報等を確認し、早めの避難

災害リスクを知る方法

- 水害** 国又は県指定 洪水浸水想定区域
- 土砂災害** 県指定 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域
- 高潮** 県指定 高潮浸水想定区域

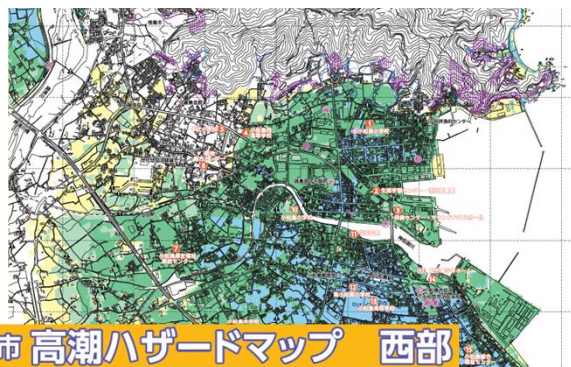
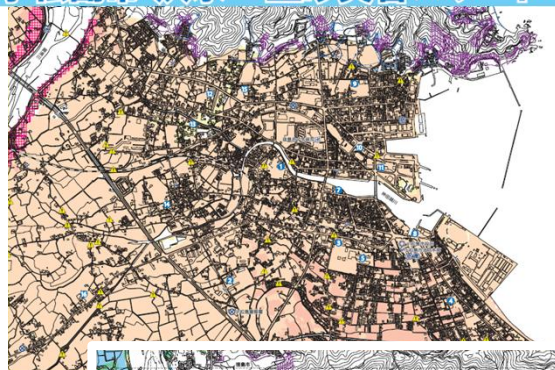
→ これらを基に**市町村がハザードマップを作成**

①徳島県水防・砂防情報マップ



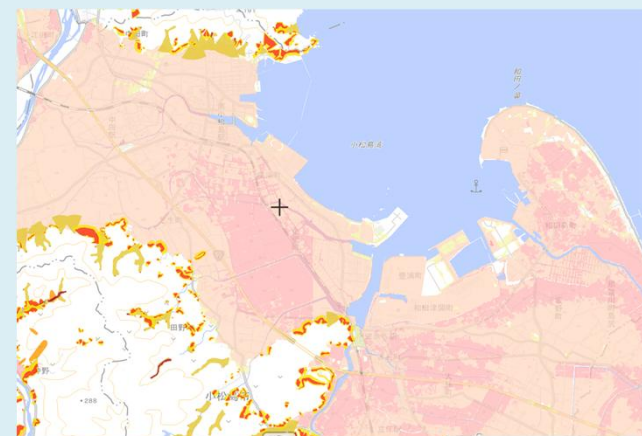
②小松島市ハザードマップ

小松島市 洪水・土砂災害ハザードマップ



小松島市 高潮ハザードマップ 西部

③重ねるハザードマップ (国土地理院)



水害リスクを知る → **洪水浸水想定区域図**

近年、大河川だけでなく中小河川の氾濫による水害の被害が頻発化したことから、水防法が改正され（令和3年5月）、中小河川の洪水浸水想定区域図の作成が義務付けられた。ただし、中小河川については、**想定最大規模と浸水継続時間のみ**

小松島市内を流れる神田瀬川、立江川などの全ての中小河川で公表されている。

なお、那賀川、勝浦川は別途公表済みである。

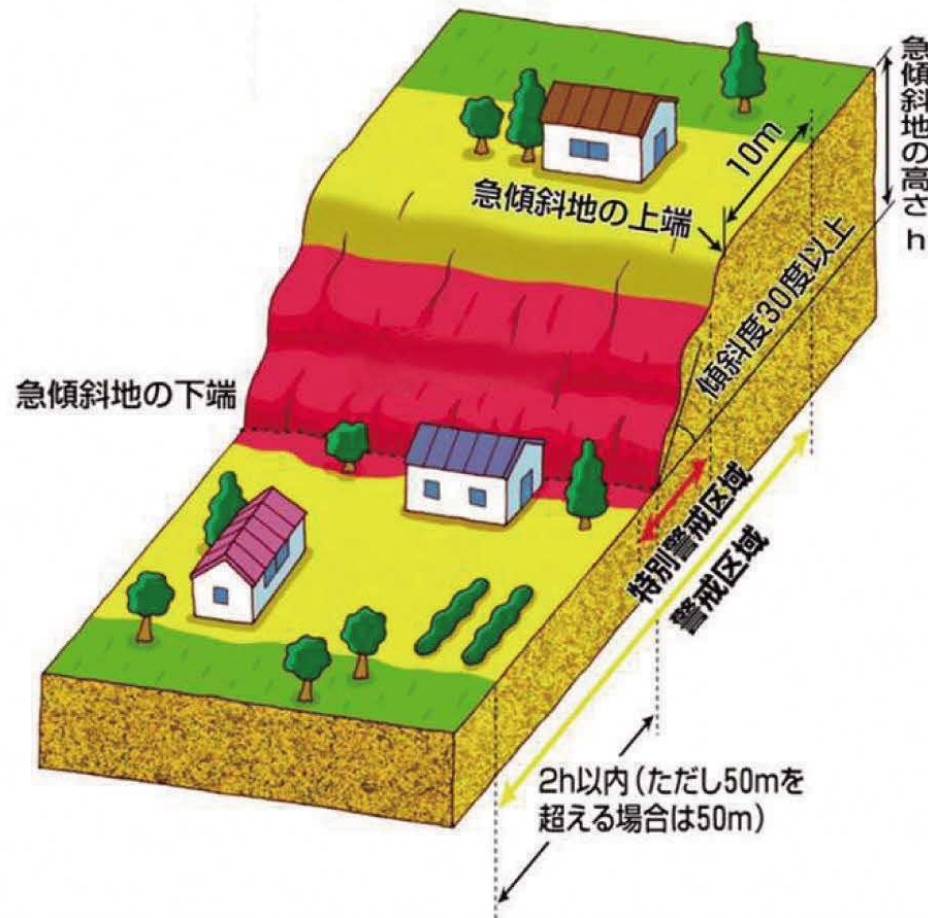
太田川、立江川・中ノ坪川、田野川・恩山寺谷川、天王谷川、政所谷川、芝生川、神田瀬川、新堀川、豊ノ本川、石見川、北馬川、中津川

徳島県HP(河川整備課)で確認できます。

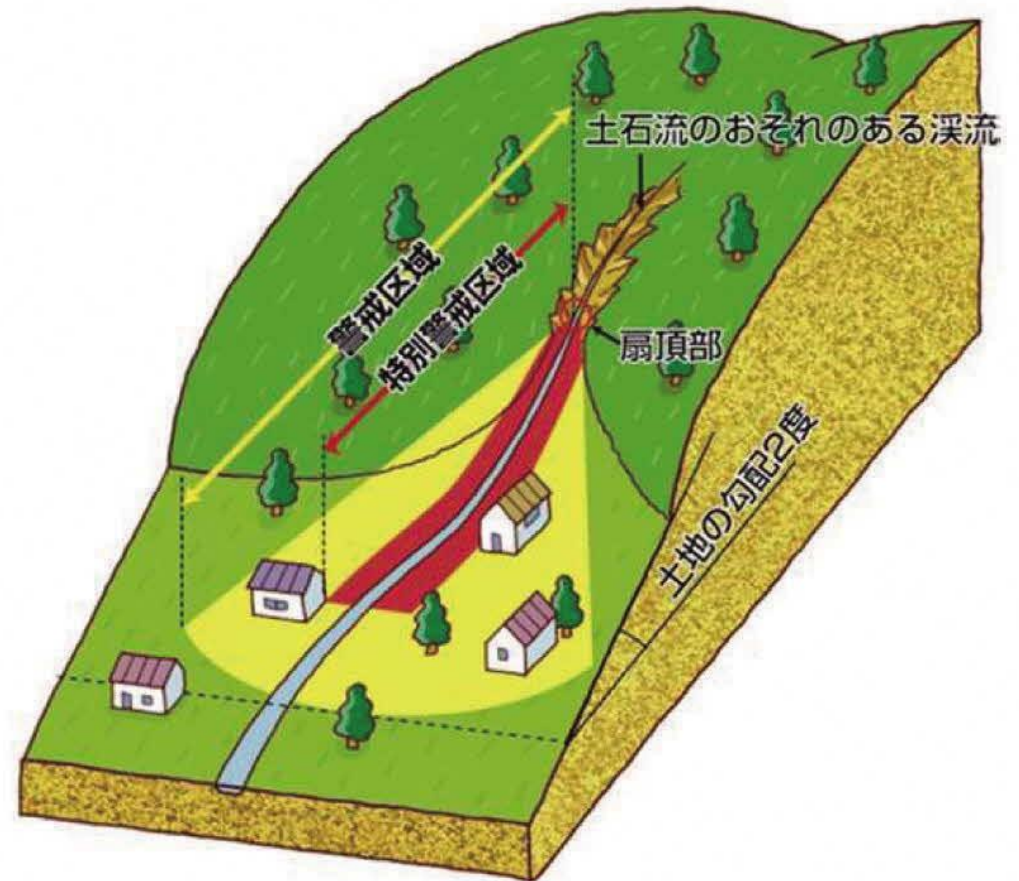
●土砂災害の危険性のある場所を知る

土砂災害警戒区域(イエローゾーン) ..土砂災害の危険のある場所

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)・・特に被害が大きくなる場所



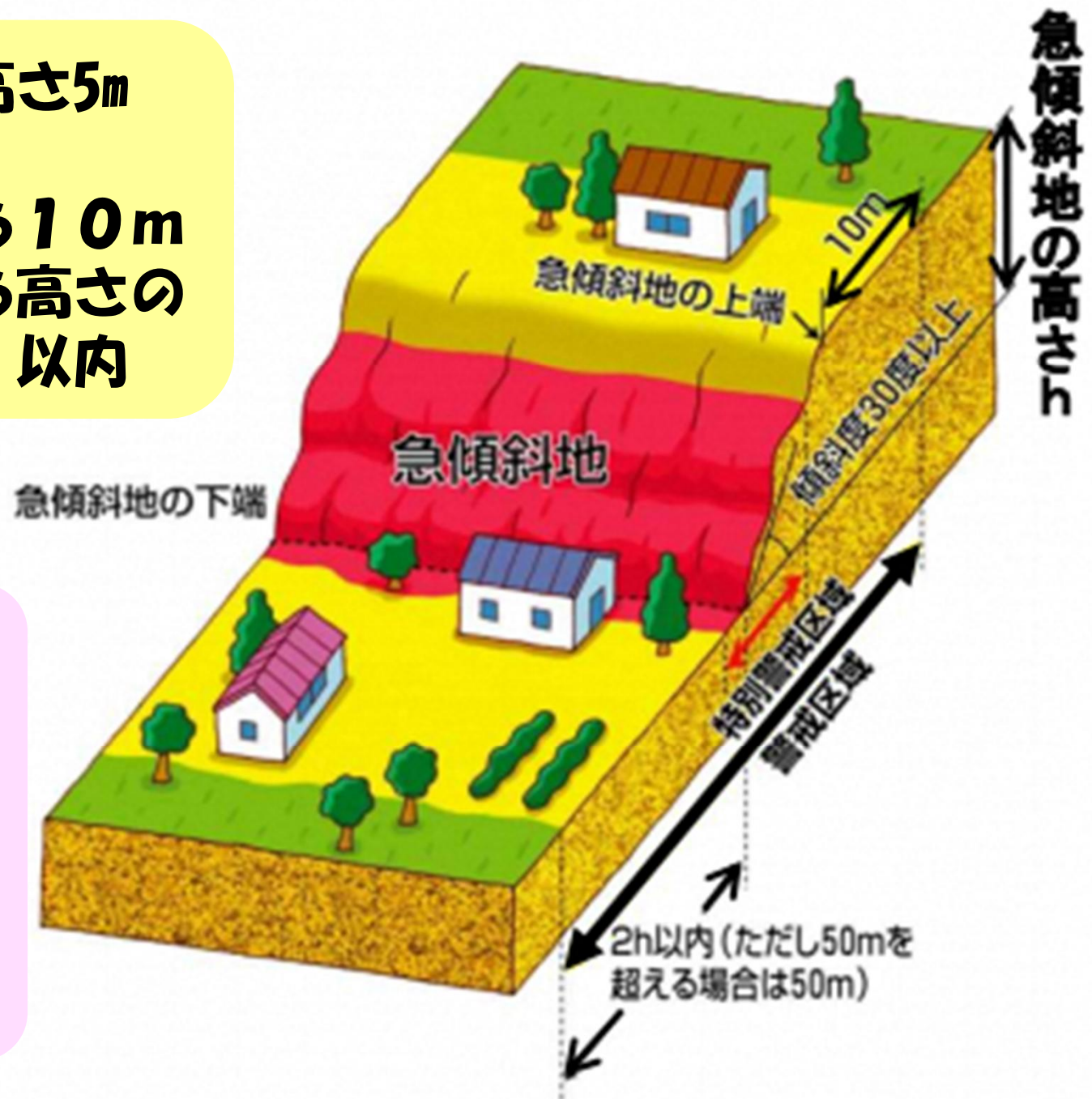
急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)



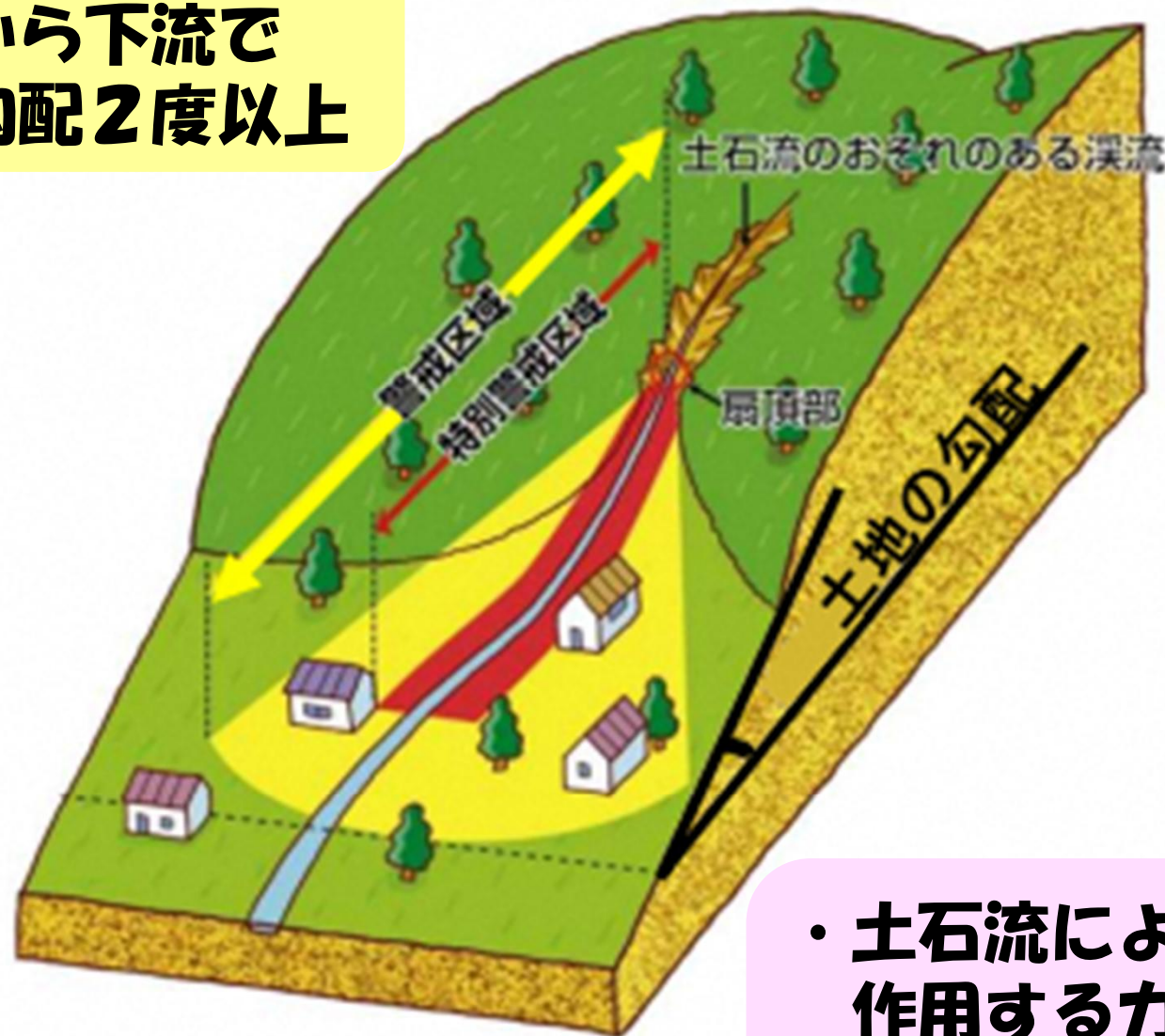
土石流

- ・ 傾斜度30度以上で高さ5m以上の区域
- ・ 急傾斜地の上端から10m
- ・ 急傾斜地の下端から高さの2倍（最大50m）以内

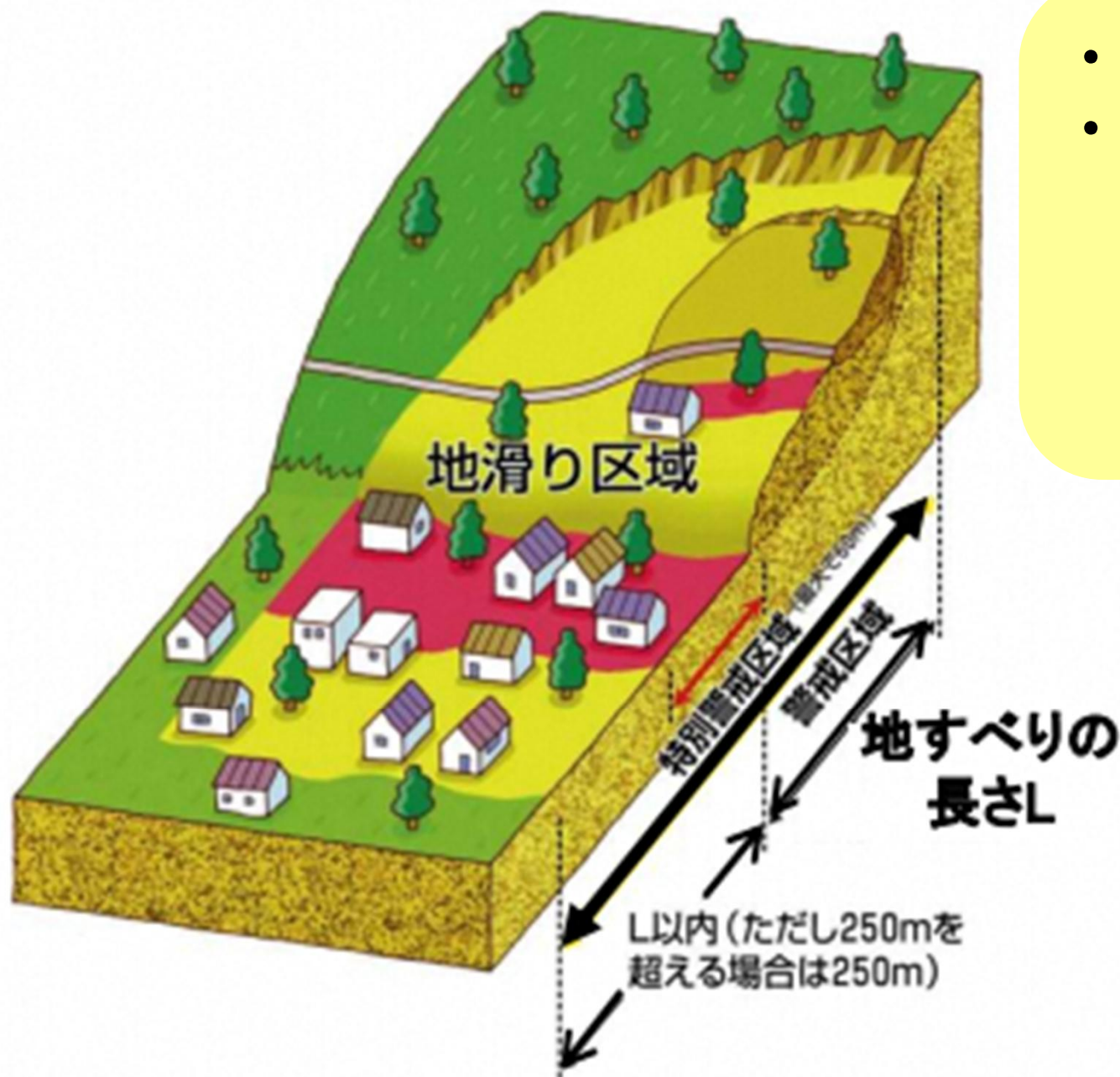
がけ崩れに伴う
土石等の移動や
堆積により建築物に
作用する力が通常の
建築物の耐力を
上回る区域



- ・ 扇頂部から下流で
土地の勾配2度以上



- ・ 土石流により建築物に
作用する力が通常の建
築物の耐力を上回る区
域

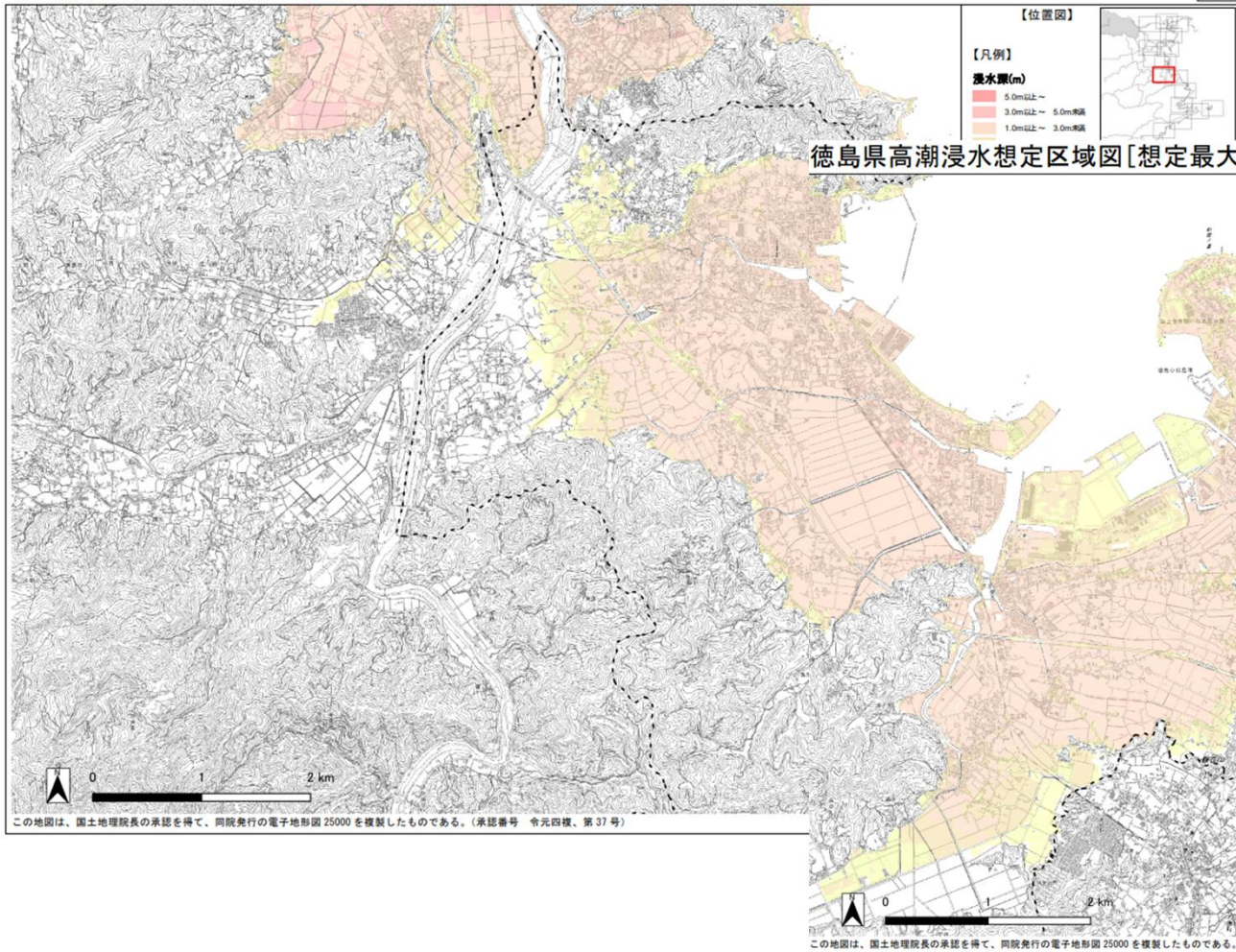


- ・ 地すべり区域
- ・ 地すべり区域の下端から地すべりの長さに相当する距離の範囲内の区域 (最大250m)

地すべりに伴う土石等の移動により建築物に作用する力(30分後)が通常の建築物の耐力を上回る等の区域

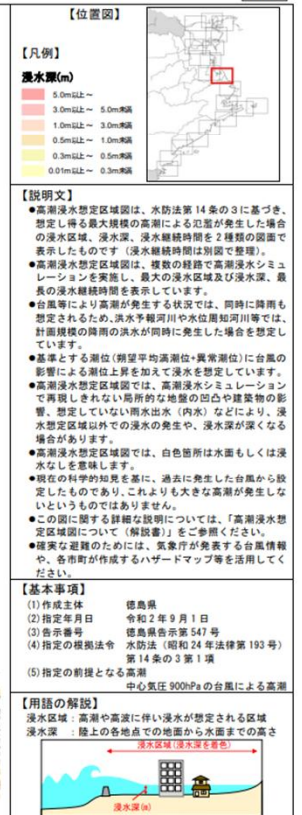
高潮浸水想定区域図

徳島県高潮浸水想定区域図[想定最大規模]（浸水区域及び浸水深）



10

11



徳島県HP(河川整備課)で確認できます。

勝浦川水系



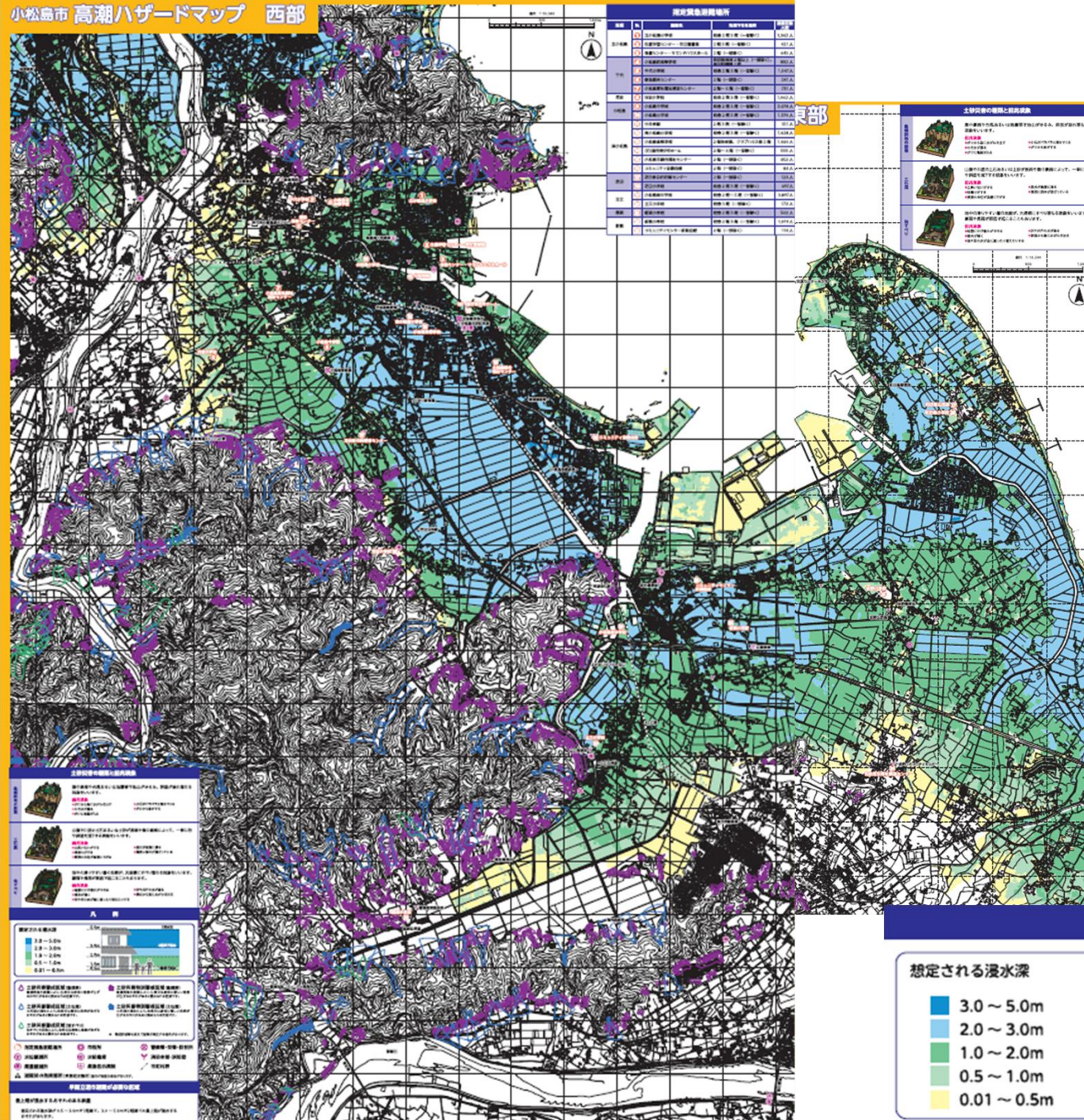
- ①危険な箇所(区域)、浸水深(水害)、種類(土砂災害)
②小松島市が決めた避難場所



凡	例
想定される浸水深 20.0m ~ 10.0m ~ 20.0m 5.0 ~ 10.0m 3.0 ~ 5.0m 0.5 ~ 3.0m 0.01 ~ 0.5m	早期立退き避難が必要な区域 家屋倒壊等危険区域 (記憶流) 堤防が決壊し、激しい記憶流により、建物等が倒壊するおそれがある区域です。 家屋倒壊等危険区域 (河岸侵食) 洪水により河岸が侵食され、本道家屋等の建物が倒壊するおそれがある区域です。
土砂災害警戒区域 (急傾斜) 急傾斜地の崩壊により、生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。 土砂災害警戒区域 (土石流) 土石流の発生により、生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。 土砂災害警戒区域 (地すべり) 地すべりの発生により、生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。	土砂災害特別警戒区域 (急傾斜) 急傾斜地の崩壊により、生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。 土砂災害特別警戒区域 (土石流) 土石流の発生により、生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。 ※注 警戒区域等を超えて被害が発生する場合があります。

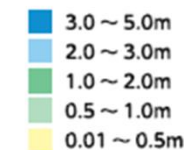
小松島市 高潮ハザードマップ

小松島市 高潮ハザードマップ 西部



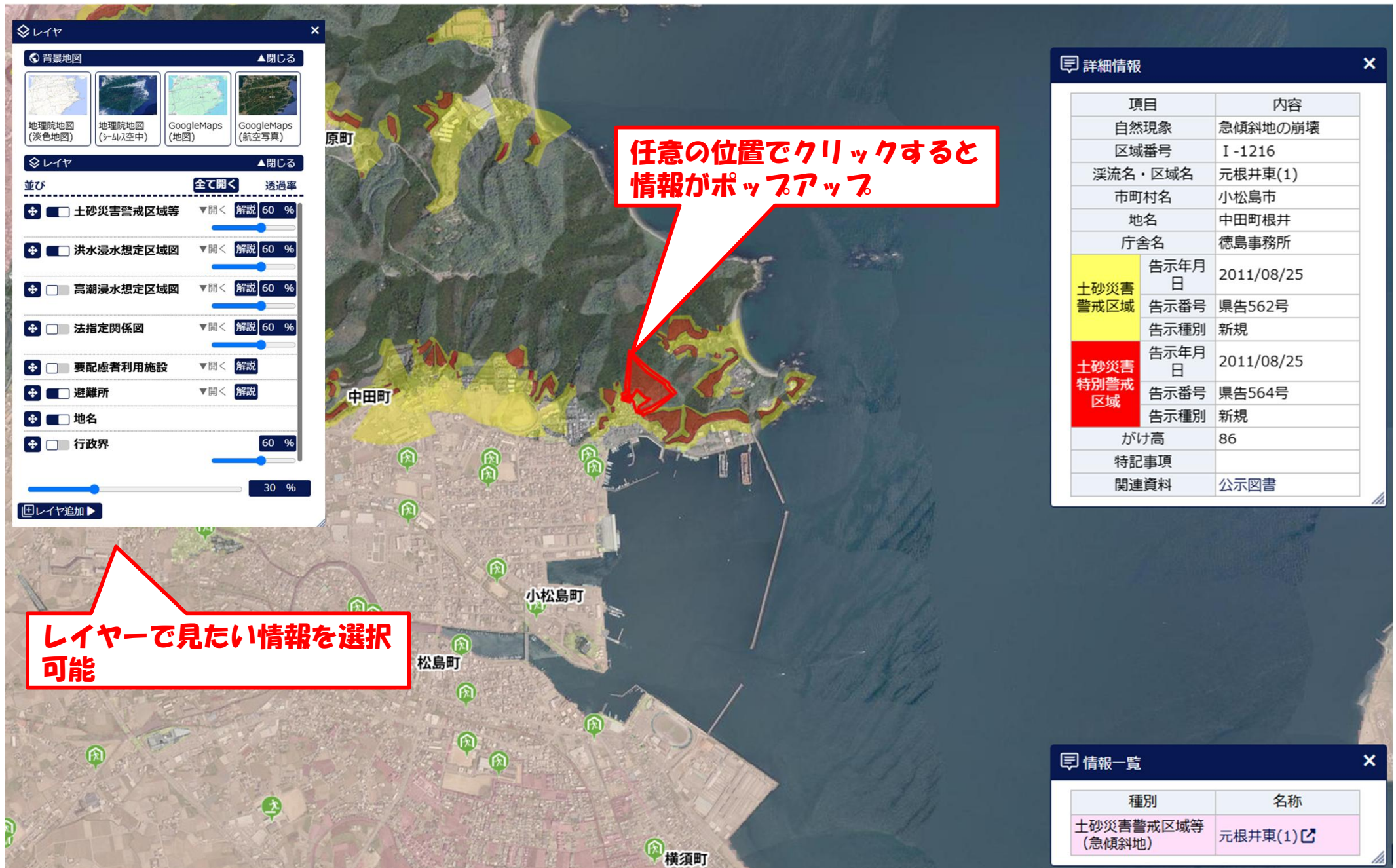
凡 例

想定される浸水深

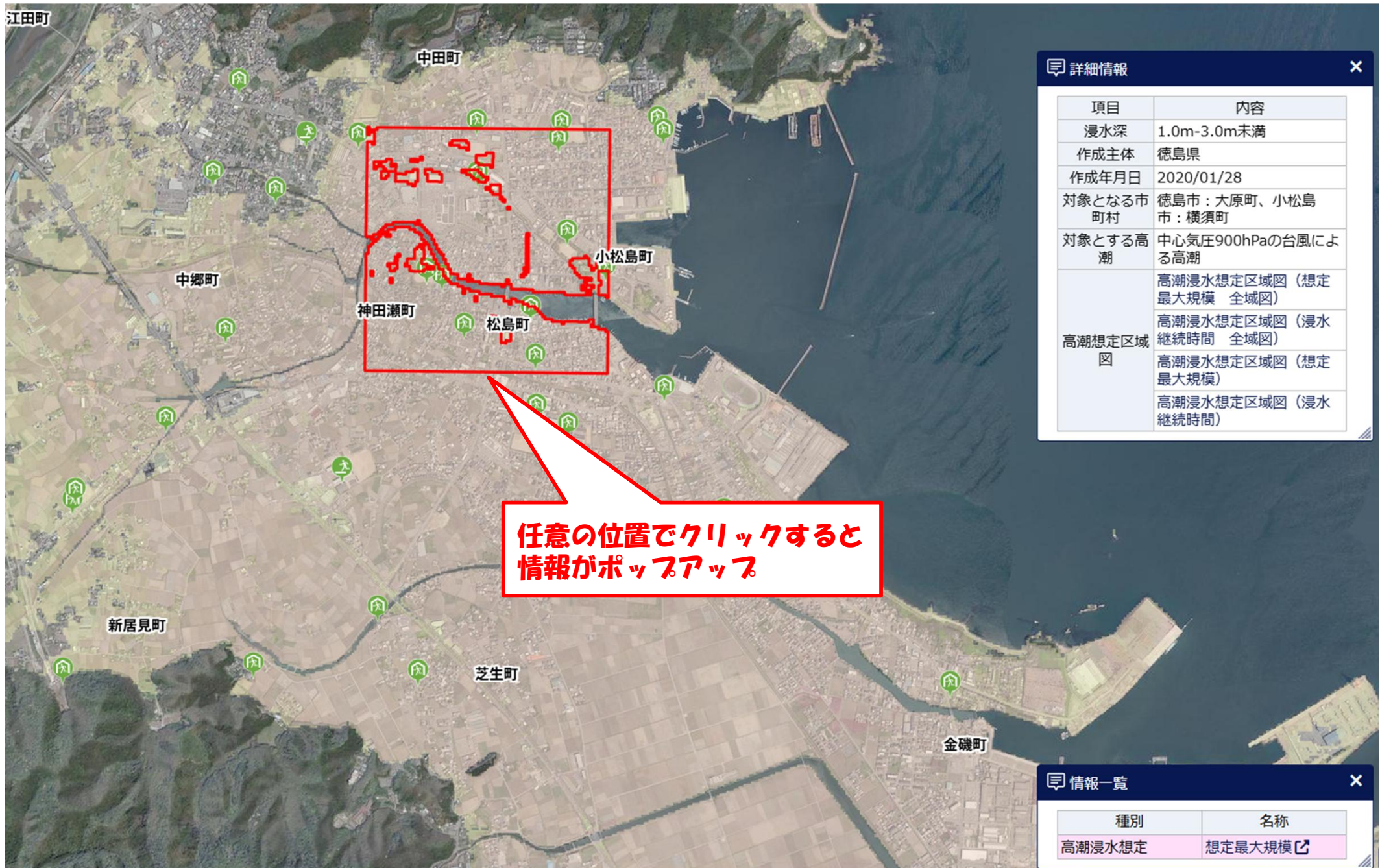


徳島県水防砂防情報マップ

(洪水浸水想定区域図・土砂災害警戒区域等)



徳島県水防砂防情報マップ(高潮浸水想定区域図)



避難確保計画について

安全な避難を考える・・避難確保計画の策定

(ア) 防災体制、情報の収集・伝達

- “避難や待避”や“休所・休校”の判断基準
- “役割分担”（①誰が、②何をするのか）
- “情報の収集・伝達方法”
（①誰が、②どうやって、③何を収集伝達するのか）



(イ) 避難誘導

- “避難場所や避難経路”（施設の避難タイプに応じて施設内外）
- “避難（待避）の移動手段”や“そのための人員”



(ウ) 施設整備

- “備蓄品や災害時必要品”



(エ) 教育・訓練

- “教育・訓練の実施スケジュール”や“その内容”



(オ) そのほか利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な措置

要配慮者利用施設
における土砂災害に
関する避難訓練
〈実践の手引き〉
群馬県より

安全な避難を考える・・避難確保計画の策定

①降雨と河川の状況

- ・ 台風
- ・ 梅雨前線や秋雨前線に伴う長雨
- ・ 線状降水帯

②利用者の出所状況等

- ・ 出所前（事前休業）
- ・ 出所後（帰宅・避難（屋外避難・屋内待機））

③その他

- ・ 警報・注意報
- ・ 避難情報（高齢者等避難・避難指示・警戒レベル）
- ・ 公共交通機関の運行状況

土砂災害

外水氾濫

内水氾濫

安全な避難を考える…避難確保計画の策定(事前休業の判断)

水害等は、台風の襲来や長雨の兆候により、災害発生前に対応できる時間があるため、通所施設においては、休業判断をすることが利用者の命を守る上で最善の判断

- ①誰が 情報収集担当者→責任者
 ※複数の者を指名
- ②いつ 利用者が在宅中（前日～朝）
 ※一番早く自宅を出る利用者を考慮
 ※利用者が通所後、天候の急変した場合のことも考えておく
- ③判断基準 気象情報・避難情報・通行規制等
 ※利用者の通所・来所時の状況を考慮
- ④連絡 連絡担当者→家族・利用者
 ※手段(電話・メール・LINE等) 確認

帰宅の判断（施設内での一時避難）

利用者が安全に帰宅できるよう早めの判断が重要

施設における防災体制の例

- 利用者の円滑な避難を確保するためには、防災体制を機能的に組織する必要があります。
- 職員だけで利用者の避難支援が困難な場合には、地域住民や利用者の家族、地元の企業等の外部の協力も得て体制を構築しましょう。
- また、夜間や休日などに迅速に駆けつけることができる緊急参集者も決めておくことが重要です。

職員一人一人が担当する内容を把握し、いざというときに対応できるようにしましょう！

①全体を指揮する
「統括指揮者」



②情報収集や伝達を担当する
「情報連絡班」



④避難に必要な設備や装備品等を
点検し準備する「装備品等準備班」

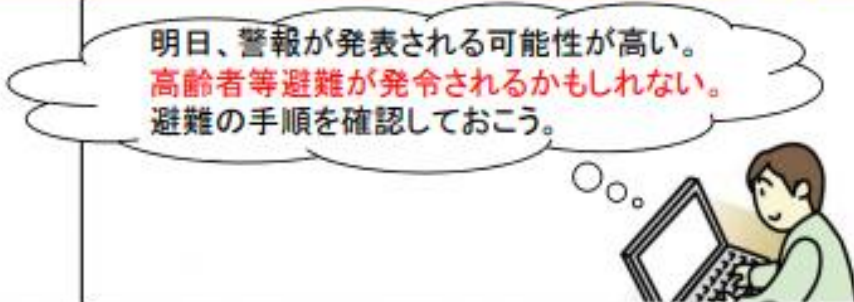
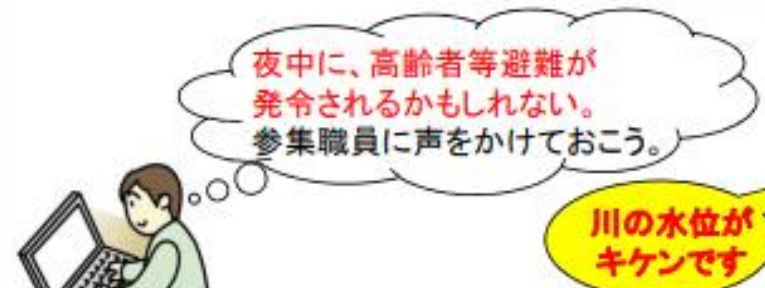


③利用者の避難支援を担当する
「避難誘導班」



【参考】統括責任者の役割

- 統括指揮者の役割は、状況を把握し**全体を指揮**することです。
- 警戒レベル等に応じて、職員等の召集や**避難開始の判断**を行います。
- 通所施設においては、**事前休業の判断**も行います。

レベル	統括指揮者	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	・状況把握、指揮 ・体制確立の判断 ・事前休業の判断	 明日、警報が発表される可能性が高い。 高齢者等避難が発令されるかもしれない。 避難の手順を確認しておこう。 事前休業の判断も考えておこう！
警戒レベル2 ＜注意体制＞	・状況把握、指揮 ・職員等召集 ・(避難開始判断)	 夜中に、高齢者等避難が発令されるかもしれない。 参集職員に声をかけておこう。 川の水位がキケンです 情報連絡班 統括指揮者 施設の体制を整えてください。
警戒レベル3 ＜警戒体制＞	・状況把握、指揮 ・避難開始判断	 避難場所まで避難を開始します
警戒レベル4 ＜非常体制＞	・状況把握、指揮 ・避難先での利用者支援の監督 ・(緊急安全確保の判断)	利用者の状況確認及び支援  

【参考】情報連絡班の役割

- 情報連絡班の役割は、防災気象情報や避難情報を収集し、統括指揮者や職員に情報を伝達することや、市町村等の関係機関や避難先、利用者の家族と連絡を取り合うことです。

レベル	情報連絡班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	・気象情報等収集 ・職員への情報伝達	災害級の大雨が予想されています。今後の情報に注意してください。 台風進路や大雨の予想情報を確認 情報伝達 台風の大雨により施設が浸水するかもしれません
警戒レベル2 ＜注意体制＞	・気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集 ・職員や避難支援協力者へ連絡	大雨や川の水位の最新情報を確認 川の水位がキケンです 報告 統括指揮者 連絡 避難をするので手伝ってください 地域の避難支援者
警戒レベル3 ＜警戒体制＞	・気象情報、水位情報、避難情報等の収集 ・利用者家族等への連絡 ・市町村等への連絡	避難情報が発令されました 共有 避難情報が発令されました 施設関係者全員 連絡 今から〇〇施設へ避難します。 保護者
警戒レベル4 ＜非常体制＞	・市町村等への連絡	●●施設は系列の〇〇施設へ全員避難しました。 市役所等へ

【参考】避難誘導班の役割

- 避難誘導班の役割は、利用者の避難誘導を行うことです。
- 避難誘導を行うにあたって、事前に誘導方法の確認や避難ルートの確認を行います。避難完了後は、利用者の点呼も行います。

レベル	避難誘導班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	・(避難誘導体制の確認) ・(避難ルートの確認)	 
警戒レベル2 <注意体制>	・避難誘導体制の確認 ・避難ルートの確認 ・(避難誘導開始)	
警戒レベル3 <警戒体制>	・避難誘導開始 ■立退き避難   ■屋内安全確保   	
警戒レベル4 <非常体制>	・避難完了の確認 ・避難先での利用者支援 ・(緊急安全確保の誘導)	利用者の状況確認及び支援   

【参考】装備品等準備班の役割

- 装備品等準備班は、避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備します。
- また、避難に必要な移動用の車両手配や避難先への持ち出し品の運搬、利用者への装備品の装着等を行います。

レベル	装備品等準備班	対応イメージ
警戒レベル1 災害への心構えを高める段階	・(避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備)	 車いすなどを確保できているか  必要な備蓄品は確保できているか
警戒レベル2 <注意体制>	・避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備 ・移動用車両の手配	 すぐ使えるところにあるか  避難に必要な車両は確保できたか
警戒レベル3 <警戒体制>	・利用者への装備品の装着 ・移動用車両の確保 ・避難先への持ち出し品等を運搬	■服装の着替え  ■移動の準備  ■リフト車への移動 
警戒レベル4 <非常体制>	・避難先での持ち出し品等の管理	■利用者の支援に必要な薬や食料の確保・管理 

防災気象情報や避難情報の収集・伝達

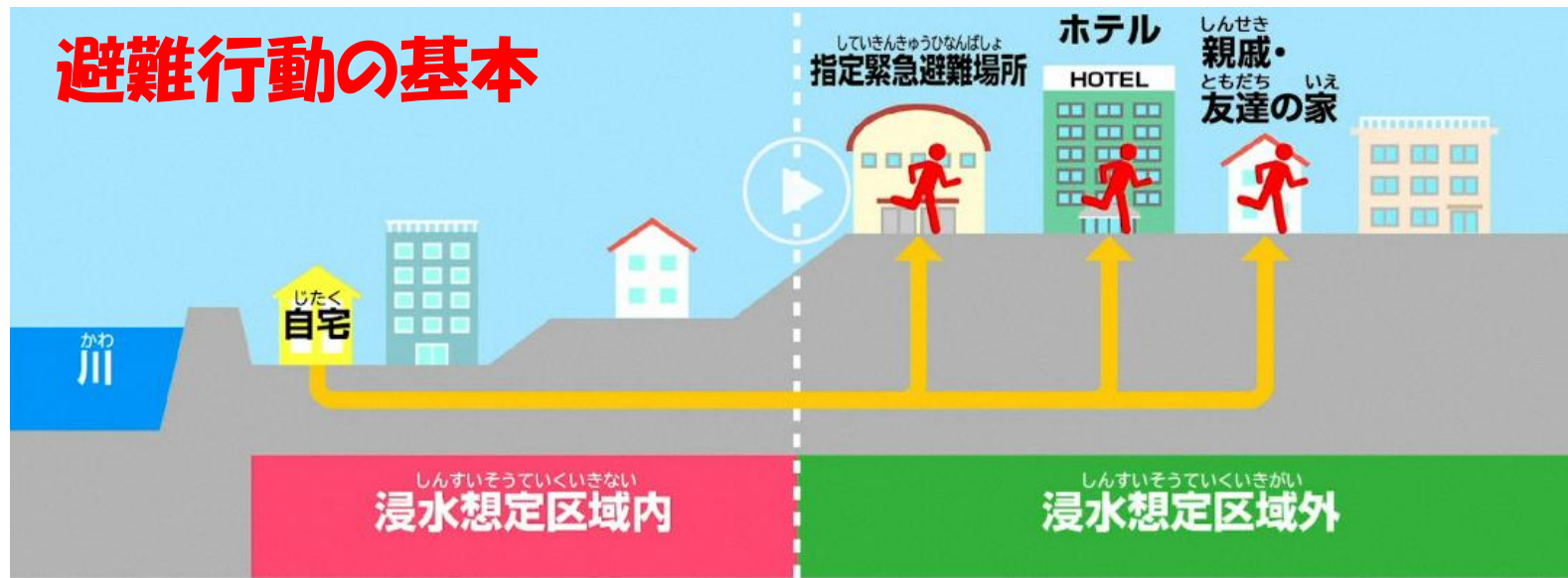
- 防災気象情報や避難情報は、初動体制の確立や避難開始の判断等をするために必要なものです。
- 収集する情報の内容や入手方法、伝達する情報の内容と伝達先をあらかじめ決めて確認しておきましょう。

種 類	名 称	入手手段 と 伝達イメージ
台風等の情報	■週間天気予報、天気予報 ■台風情報 ■早期注意情報	□テレビのデータ放送 □ラジオ  災害級の大雨が予想されています。今後の情報に注意してください。 台風進路や大雨の予想情報を確認 情報伝達 台風の大雨により施設が浸水するかもしれません
雨の情報	■レベル2注意報 ■レベル3警報 ■レベル4危険警報 ■レベル5特別警報 ■気象防災速報 ■キキクル(危険度分布)	□インターネット  川の水位がキケンです 大雨や川の水位の最新情報を確認 報告 連絡 避難をするので手伝ってください 統括指揮者 地域の避難支援者
河川の情報	■氾濫注意情報 ■氾濫警戒情報 ■氾濫危険情報	□防災情報メール □スマートフォンアプリ  避難情報が発令されました 共有 避難情報が発令されました 今から〇〇施設へ避難します。 連絡 保護者 施設関係者全員
避難の情報	■警戒レベル3(高齢者等避難) ■警戒レベル4(避難指示) ■警戒レベル5(緊急安全確保)	

高潮に関する注意報・警報にも注意

安全な避難場所・避難経路を考える（水害・高潮）

●立ち退き避難（水平避難）・・・浸水想定区域外へ移動



●屋内安全確保（垂直避難・待避）・・・浸水深より高い階へ移動

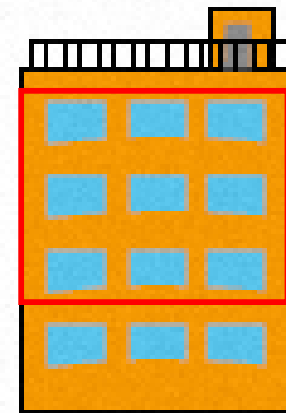


ただし、3条件のクリア必要

- ①洪水や高潮で家が壊れない
(家屋倒壊等氾濫想定区域でない
高潮に対する構造耐力がある建物)
- ②浸水深より居室が高い
- ③食料や水、トイレ等が十分で
水が引くまで我慢できる

安全な避難場所・避難経路を考える（土砂災害）

イエローゾーンやレッドゾーンの外への避難が避難行動の基本

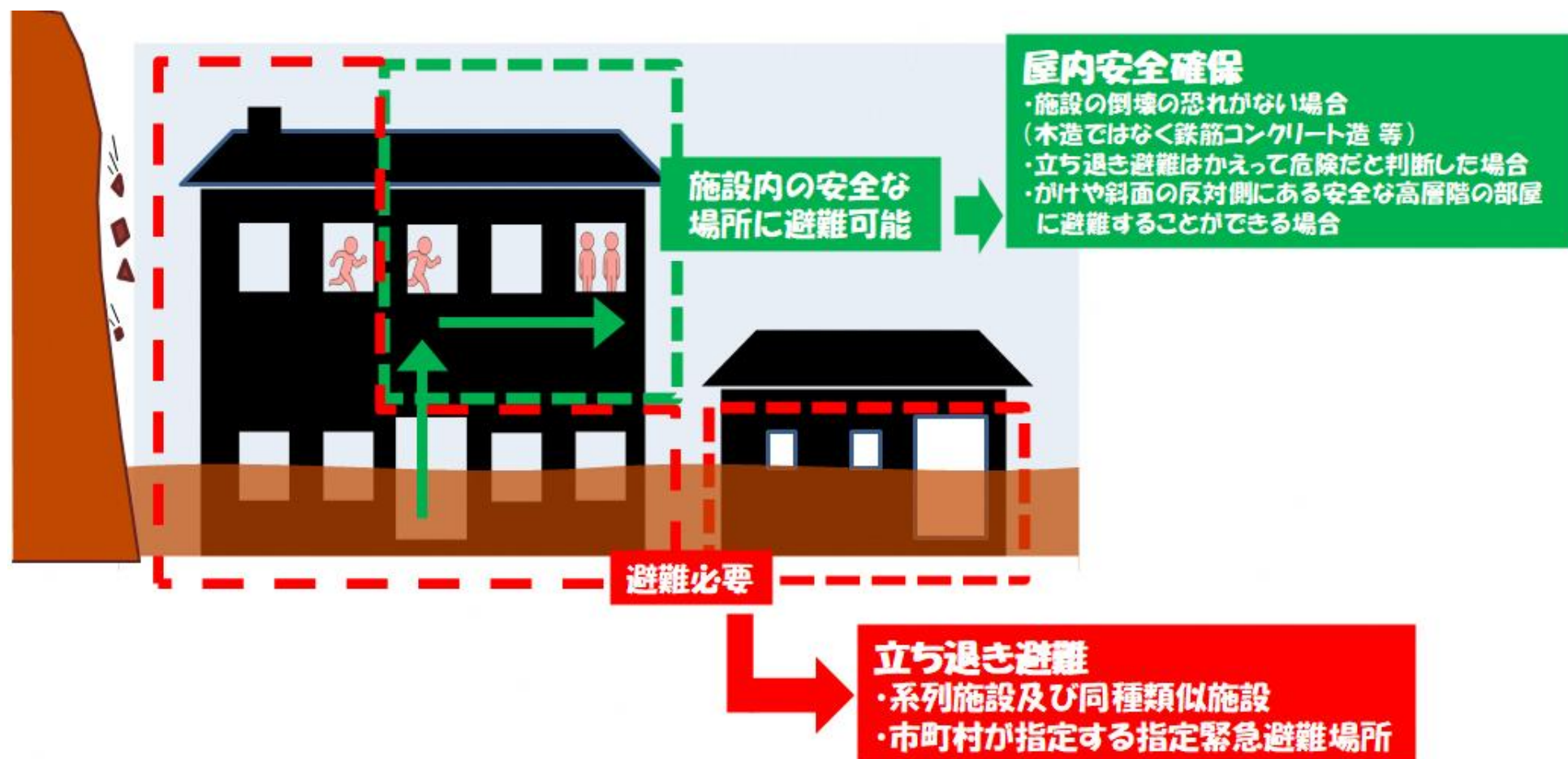


堅牢な建物で土砂が流入しない高い居室がある場合は屋内安全確保も可

●避難場所

土砂災害警戒区域の外への立退き避難が原則です

- ・避難場所は、市町村の指定した避難場所だけではありません
- ・市町村の指定避難場所については、土砂災害に適用できることを確認しましょう



●避難場所が決まったら、安全に避難できるルートを決めておこう

避難先の選定における留意点

1

施設が下記の区域に該当する

※高潮で壊れる建物に住んでいる場合を含む

☐ はい ☐ いいえ

家屋倒壊等氾濫想定区域

土砂災害(特別)警戒区域

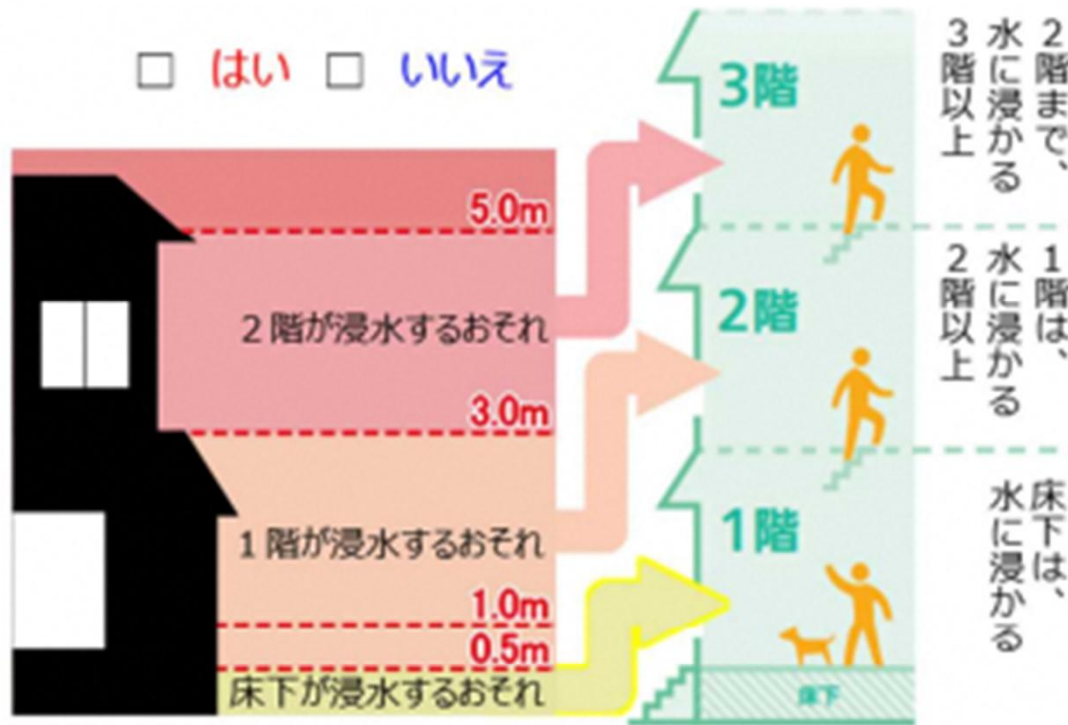
はい

施設外の避難先に
立退き避難

2

施設の浸水深より高い所に避難スペースがある

☐ はい ☐ いいえ



いいえ (高い所にスペースがない)

3

浸水継続時間

避難スペースにて
電気や通信、
水道、トイレ等が
使用可能である

☐ はい ☐ いいえ

いいえ

はい



施設内の高い所に
屋内安全確保

■ 系列の施設や
同種・類似の施設



■ 市町村が指定する
指定(福祉)避難所、
指定緊急避難場所



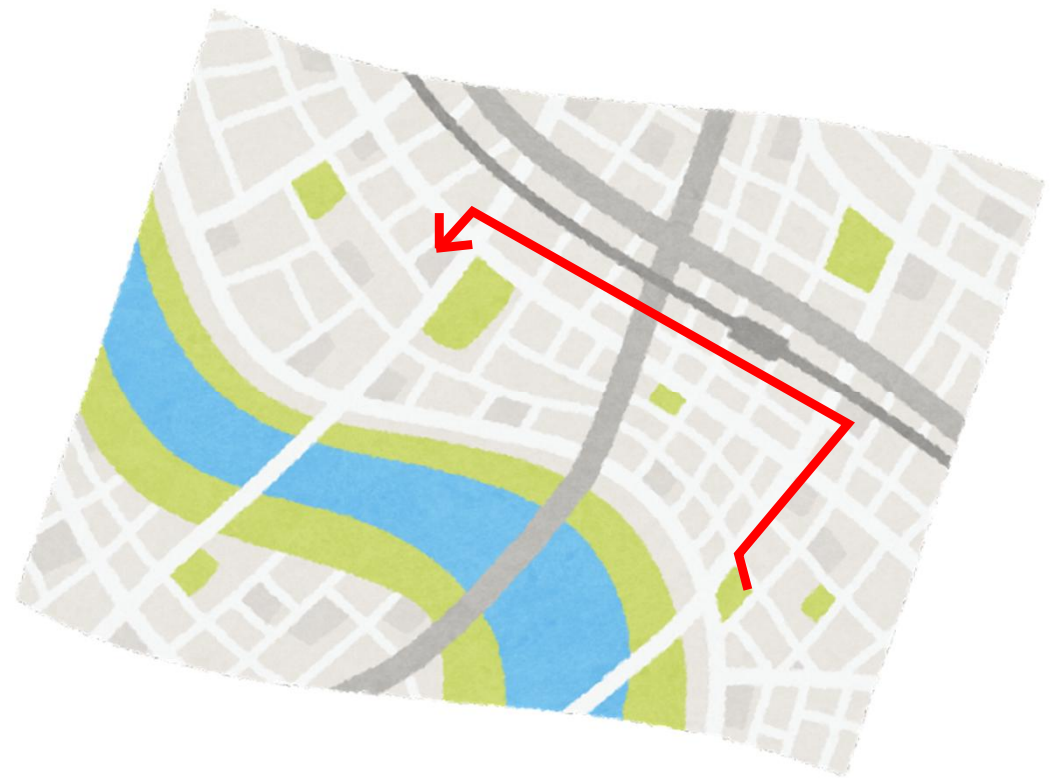
■ 近隣の安全な場所
■ 宿泊施設



どうやって避難するか決めておく

- ・通行止めを考慮して**複数の経路**決めておく。
優先順位をつける。
- ・**荒天時や夜間**など避難時のことを想定する。
- ・**危険な箇所や歩きにくい箇所**等を
できるだけ避ける。

(例)「周りより低い場所」
「川の近くや土手」
「水路や側溝」
「がけや谷川の出口」、
「落石の恐れのある箇所」
「橋」
「道幅の狭い場所」
「老朽した建物」等



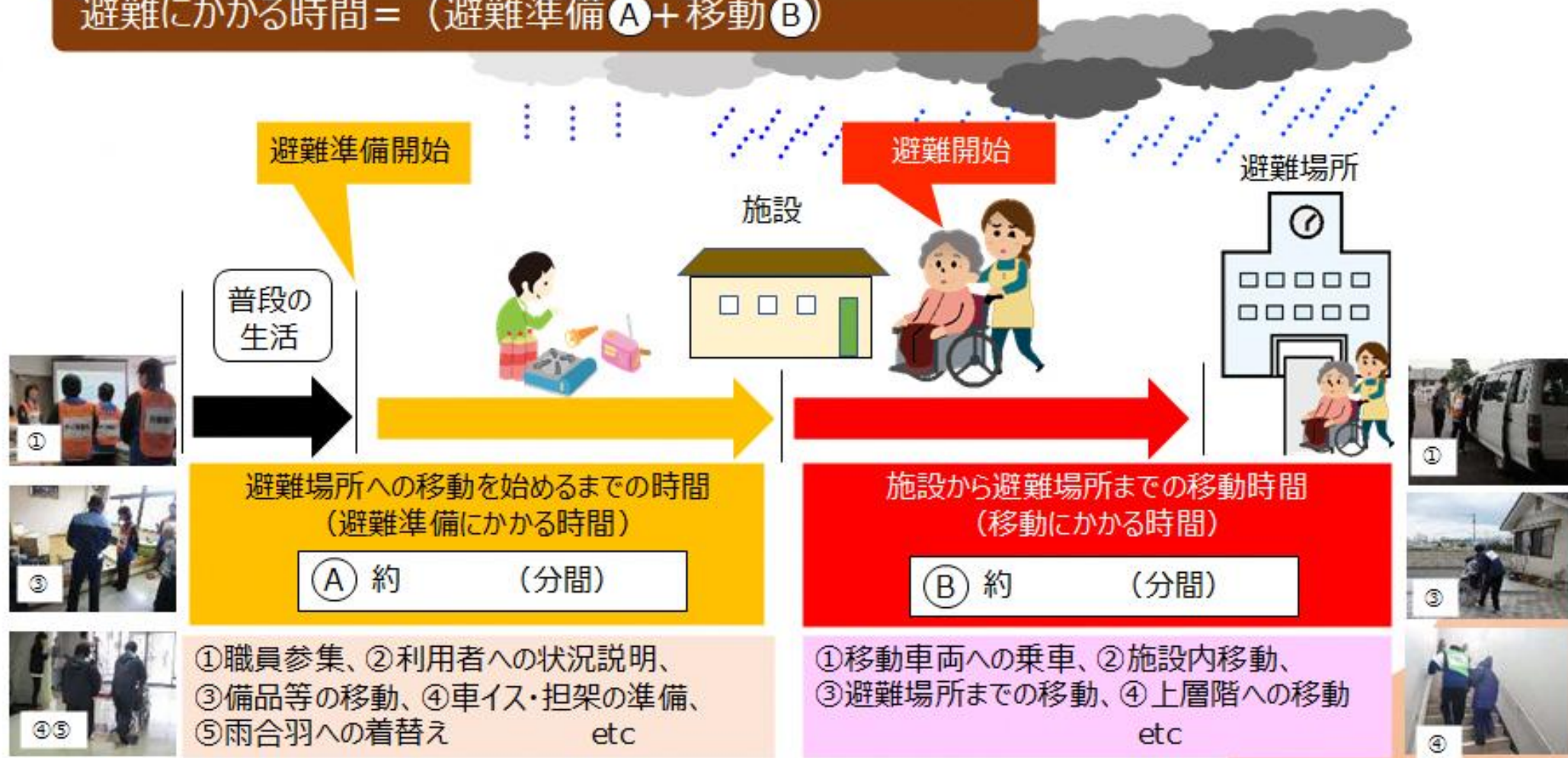
●車で移動するときは、道路の浸水が始まる前に避難の完了を！

●避難のタイミングを決める（警戒レベルと避難行動）

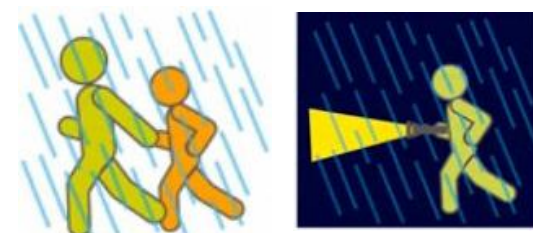
警戒 レベル	施設がとるべき行動	避難情報 市町村から発令	警戒レベル相当情報	
			気象情報	河川水位
5	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全 確保	氾濫特別警報 大雨特別警報 土砂災害特別警報 高潮特別警報	氾濫発生・切迫
警戒レベル4までに必ず避難！				
4	避難完了 	避難指示	氾濫危険警報 大雨危険警報 土砂災害危険警報 高潮危険警報	氾濫危険水位
3	避難開始 	高齢者等 避難	氾濫警報 大雨警報 土砂災害警報 高潮警報	避難判断水位
2	日没までの避難完了 前日の休業判断 		氾濫注意報 大雨注意報 土砂災害注意報 高潮注意報	氾濫注意水位
1	情報収集 		早期注意情報 (警報級の可能性)	

●避難のタイミングを決める際の留意点

避難にかかる時間 = (避難準備 A + 移動 B)



●避難時間は、避難時の状況(天候や時間帯、停電)や避難時の態勢(人数や使用可能車両数等)により変わること注意到意



早めの避難

●テレビやラジオ、PCやスマホなどで情報を集める

① ^{ひなん}避難 ^{じょうほう}情報

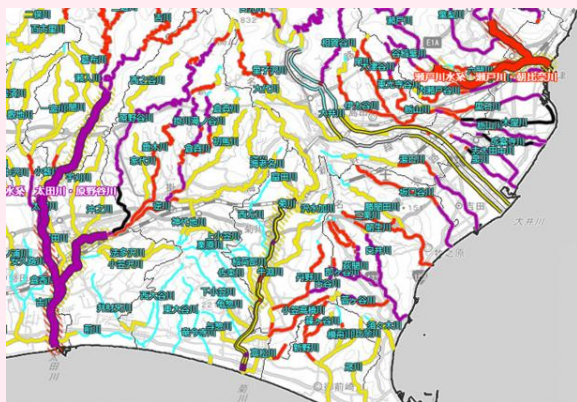
^{けいかい}警戒レベル3 ^{こうれい}高齢者等 ^{しや}避難

^{けいかい}警戒レベル4 ^{ひなん}避難 ^{しじ}指示

② ^{たいふう}台風や大雨、^{はおおめ}川の ^{すい}水位 ^{かん}に関する ^{じょうほう}情報



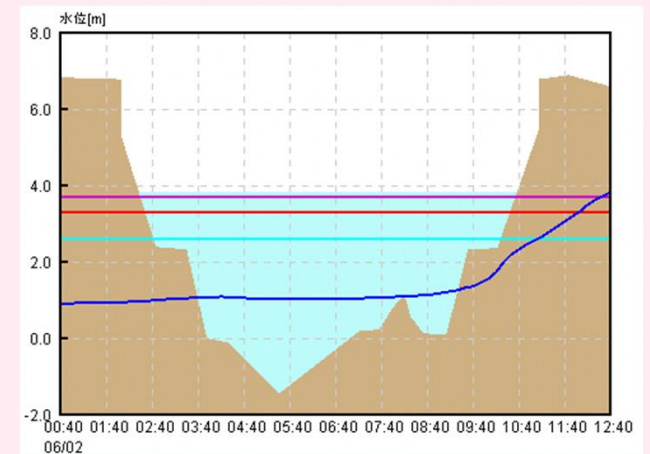
キキクル



^{かせん}河川 ^{かんし}監視カメラ



^{かせん}河川 ^{すい}水位 ^{じょうほう}情報



避難に役立つ防災情報・徳島県水防情報

- TOP
- 地図情報
- 雨量情報
- 河川水位情報
- ダム情報
- 潮位情報
- レーダー雨量
- 気象警報・注意報 (気象庁)
- 洪水予報
- 氾濫警戒情報等
- 水防警報
- 高潮氾濫発生情報
- カメラ映像
- 土砂災害情報
- CSVダウンロード
- 関連リンク

重要な情報

観測情報	1時間あたりの雨量が基準値を超過した地点	なし
	降りはじめからの雨量が基準値を超過した地点	なし
	警戒基準に達した河川	なし
	特別警戒水位に達した地点	なし
発表情報	洪水予報	<発表なし>
	氾濫警戒情報等	<発表なし> 県内の国管理河川（今切川、旧吉野川、桑野川（国管理区間）、派川那賀川）の発表情報は こちら （川の防災情報）
	水防警報	<発令なし> 県内の国管理河川（今切川、旧吉野川、桑野川（国管理区間）、派川那賀川、吉野川、那賀川（国管理区間））の水防警報は こちら （川の防災情報）
	高潮氾濫発生情報	<発表なし>

気象警報・注意報

2026年07月22日07時32分 発表

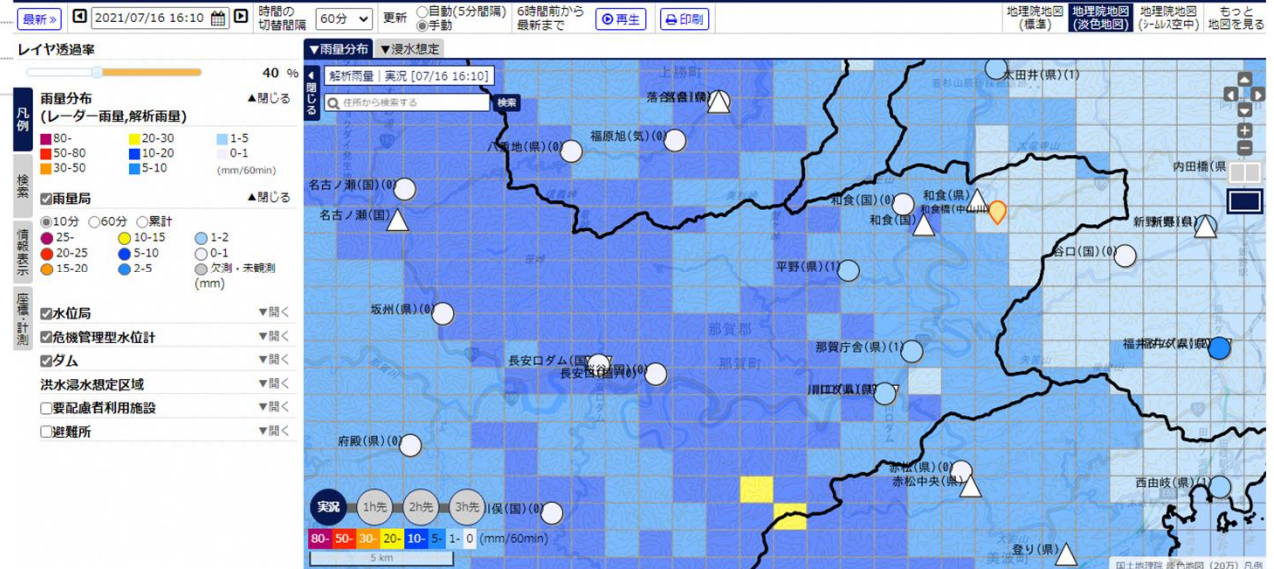
[詳細はこちら\(気象庁\)](#)

徳島・鳴門	雷
美馬北部・阿北	雷
美馬南部・神山	雷
三好	雷
阿南	雷
那賀・勝浦	雷
海部	雷

地図情報、雨量情報、河川水位情報、ダム情報、気象警報・注意報、洪水予報、氾濫警戒情報、水防警報、カメラ映像等が確認できる。

地図情報

徳島県河川防災情報



スマートフォン向けページ

<https://www.kasen.pref.tokushima.lg.jp/sp/>
(直接リンク)



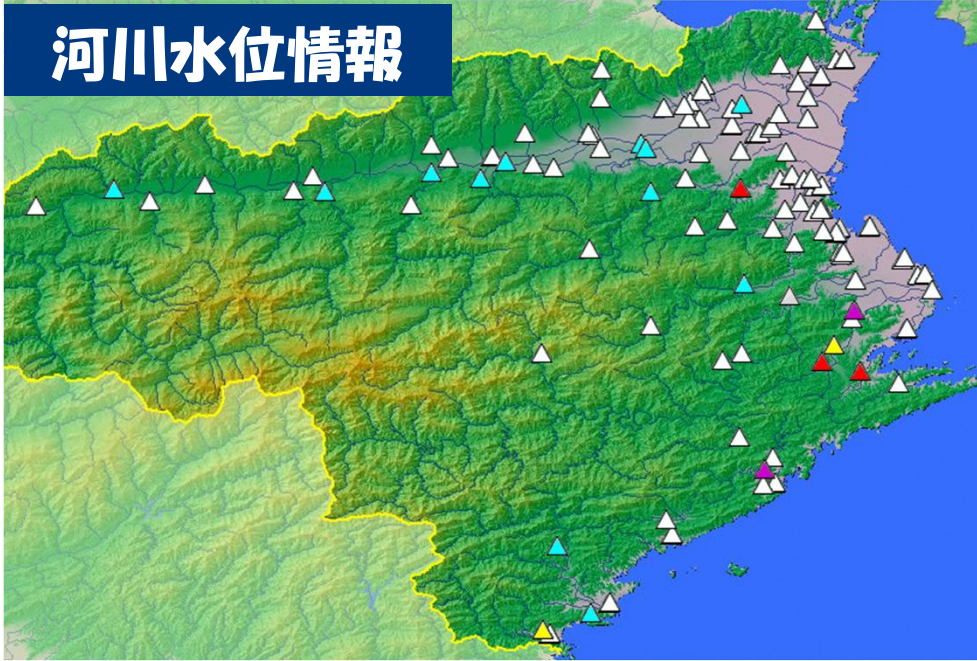
モバイル向けページ

<https://www.kasen.pref.tokushima.lg.jp/fp/>
(直接リンク)



避難に役立つ防災情報・徳島県水防情報

河川水位情報



カメラ映像



勝浦川 徳島市飯谷町下沖野



江田（勝浦川）

神田瀬川・中郷町



神田瀬川 小松島市中郷町

避難に役立つ防災情報・土砂災害情報システム

徳島県土砂災害情報システム

[HOME](#)[気象情報](#)[土砂災害
危険度情報](#)[市町村別
危険度一覧](#)[解説](#)

地域の詳細な土砂災害の危険度
▶クリックして詳細を表示

[解説](#)

Lv5
災害切迫



実況で土砂災害特別警報発表基準に到達

Lv4
危険



実況～2時間先の予想で土砂災害危険警報発表基準に到達

Lv3
警戒

3時間先の予想で土砂災害危険警報発表基準に到達

Lv2
注意

実況～6時間先の予想で土砂災害注意報発表基準に到達

土砂災害警報・注意報
▶クリックして詳細を表示



気象庁レーダーによる雨量分布
▶クリックして詳細を表示



凡例

- Lv5 土砂災害特別警報
- Lv4 土砂災害危険警報
- Lv3 土砂災害警戒
- Lv2 土砂災害注意報

[解説](#)

凡例

- | | |
|---------|---------|
| ■ 80- | ■ 10-20 |
| ■ 50-80 | ■ 5-10 |
| ■ 30-50 | ■ 1-5 |
| ■ 20-30 | ■ 0-1 |
- (mm/60min)

[解説](#)

徳島県
マスコット
すだちくん

様々な自然災害のリスクを確認
徳島県水防・砂防情報マップ
▶クリックしてページを開く

県内の水防情報を確認
徳島県水防情報
▶クリックしてページを開く

雨量情報をメールで確認
雨量情報のメール配信サービス
▶クリックしてページを開く

スマートフォン版

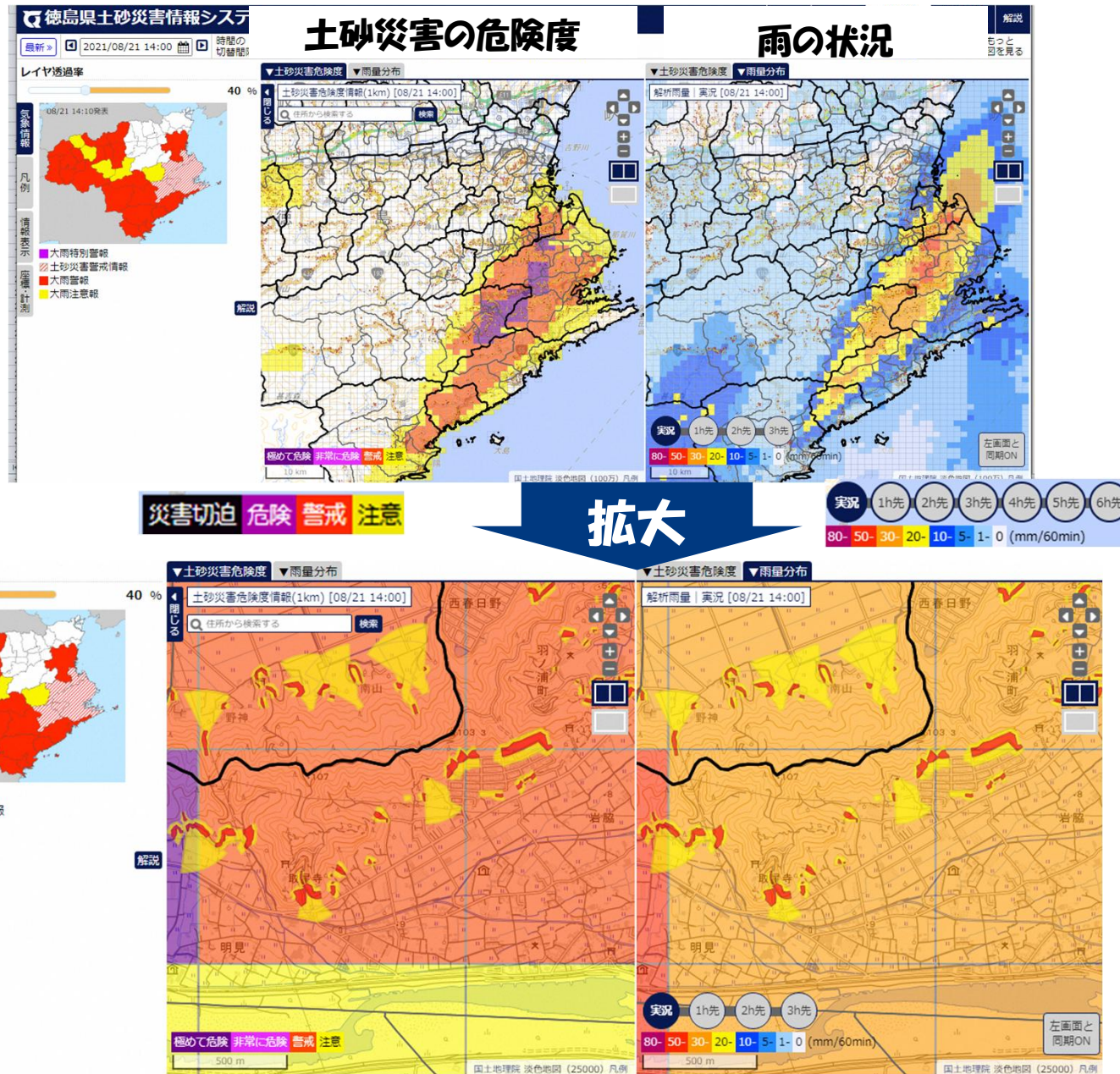


<https://www.sabo.pref.tokushima.lg.jp/sp/>



徳島県土砂災害情報システム(徳島県)

●自宅周辺の土砂災害の危険度と雨の状況が両方わかる



訓練について

土砂災害・水害の避難訓練と訓練時の留意点

①地震・火災の避難訓練と土砂災害・水害の避難訓練の違い



②最も重要なのは「情報収集・伝達」や「防災体制」

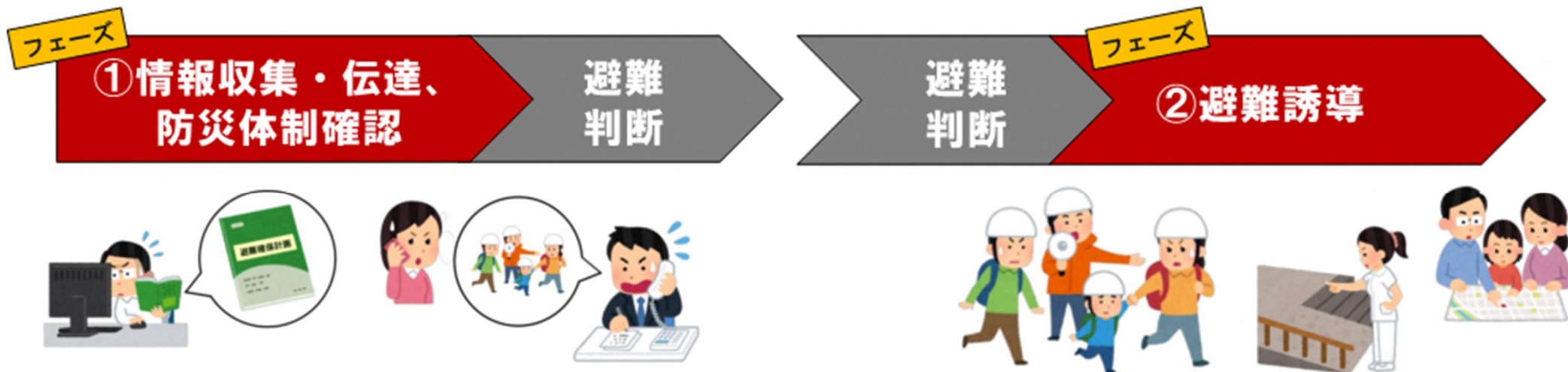


③要配慮者利用施設の「避難誘導」の訓練に関する留意点



避難訓練の実践メニュー

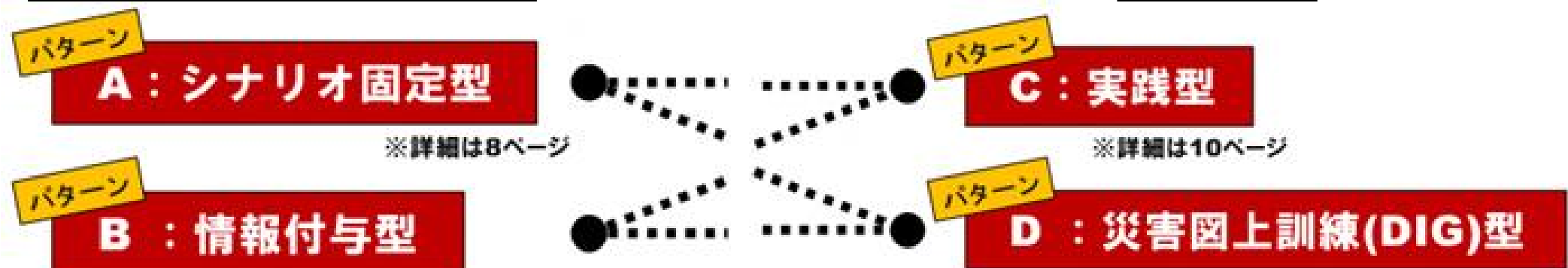
(1) 訓練フェーズ(段階)



(2) 訓練パターン(手法)

情報収集・伝達、防災体制確認

避難誘導



各フェーズの手法を組み合わせ、訓練を実践してください。

(A → C 、 A → D 、 B → C 、 B → D)

①情報収集・伝達、防災体制確認訓練 <A：シナリオ固定型>





②避難誘導訓練 <C：実践型>

実践
訓練



模擬
訓練



②避難誘導訓練 <D：災害図上訓練（DIG）型>



避難訓練の種類・・組み合わせで行うことも可

訓練種類	立退き避難訓練	屋内安全確保訓練		
訓練 イメージ	施設内移動 ⇒ 車両への移動、徒歩⇒ 避難先(利用者の支援) 	施設上階への移動(階段・エレベーター)⇒ 上階での利用者の支援 		
訓練種類	図上訓練	情報収集・情報伝達訓練	避難経路等の確認訓練	
訓練 イメージ	・地図等を活用したイメージ訓練 	・日頃からの気象情報等の確認 ・施設内での情報伝達訓練 	・避難先までの移動時間の確認 ・大雨時における安全性の確認 	

避難訓練の種類

訓練の種類	設備・装備品・備蓄品・持ち出し品等の確認訓練
訓練イメージ	・利用者の避難に必要なものを確保 ・避難先にて必要なものを確保 ・移動しやすい場所にあるかの確認 

【参考】屋内安全確保で避難するときの注意点

○施設内に数日間過ごせる量の食糧や水、薬を備蓄しておきましょう。

○停電、断水、ガスの供給停止に備え、施設内に数日間過ごすための懐中電灯、非常用電源、携帯用トイレ等を備蓄しておきましょう。



【参考】避難支援に必要な設備や機材等

○エレベーターの活用に加え、非常用電源の設置やエレベーターの代替えとなるスロープの設置、階段昇降機の設置、車椅子等を支援者が持ち上げることも想定した階段幅の確保しましょう。

○避難及び避難先における支援に必要な装備品や備蓄品を適切に確保しておきましょう。

※電力を必要としないものや蓄電池により稼働するもの



※車椅子や担架等を支援者が持ち上げることを想定した階段幅



非常用発電機



スロープ



出典：社会福祉法人新和会

避難訓練における留意点

- 避難訓練は、**毎年実施することが重要**です。
- また、訓練結果は**市町村に報告**する必要があります。
- 訓練終了後には、参加者により**訓練の振り返り（AAR※）を実施**し、必要に応じて**避難確保計画を見直すとともに**、避難体制の改善につなげるようにしましょう。
- 訓練結果の振り返りを適切に実施するためには、**あらかじめ訓練の目的と目標を決めておく**ことが重要です。



5分程度でできるので、是非、やってみましょう。

1. 何をしようとしていた？
2. 実際はどうだった？
3. なぜそうなった？
4. 次はどう改善すべきか？



<振り返り(AAR)のイメージ>

※AAR(After Action Review)とは、訓練で明らかになった失敗や課題を当事者同士で議論し、次への改善や教訓として組織の災害対応に活かす「ふりかえり」です。

避難訓練時の心構え

- 目標を定めて（目的を意識して）自分たちなりに訓練すること**
- 災害が起きそうなときの状況をイメージして試みる**
- できることから始める**

- ◇**想定される状況や必要と考えられる訓練項目についてまとめ、各施設の状況（入所者や通所者、職員の状況など）に応じて、自分達なりに訓練することが大切。→施設ごとに必要な訓練内容は異なる**
- ◇**いざというとき、冷静に判断するために災害時に発生しそうなことをイメージすることを意識しながら実施することが重要←訓練時に状況設定**
- ◇**災害は想定どおりに発生してくれない。「できること」と「できないこと」も、実際に確認してみることが大切→その上で利用者や職員の命を守る**

避難訓練の振り返りのポイント

- ◇設定した「訓練目標」は達成できましたか？
- ◇訓練で良かったことや得られたことは何でしたか？
- ◇避難にかかった時間は、事前のみこみのおいでしたか？
(見直しをする必要はありませんか？)
- ◇改善が必要な施設の体制はありませんか？
- ◇避難確保計画で見直しや追加が必要な項目は何でしたか？
- ◇本当に災害が発生しそうになったときに、施設利用者や職員は、
助かることができますか？

ご静聴ありがとうございました